

(7-1600.7)

「ソヴェエト」聯邦猶太人植民地
「ビロ、ビッジャン」區事情

昭和七年九月

ソヴェエト聯邦猶太人植民地事情

歐米局第一課

REEL No. A-0658

0019

アジア歴史資料センター

序

「ピロ、ビッサン」區ハ極東露領方面ニ對スル「ソヴェト」聯邦ノ猶太
人植民政策ノ具體的表現トシテ世人ノ注目ヲ惹ク所ナルノミ
ナラス同地方ハ我國防ノ安全及國民的生存ニ重大ナル關係ヲ
有スル滿洲國ト境ヲ接セリ從テ之カ研究ハ興味ナシトセス
依テ茲ニ當課員野口屬ノ稿ニ係ル本調書ヲ印刷ニ附シ以テ研
究上ノ參考ニ資セントス

昭和七年九月十七日

歐米局第一課

「ソヴィエト」聯邦猶太人植民地
「ビロ、ビツジャン」區事情

目次

第一章 猶太人植民地「ビロ、ビツジャン」區事情	一頁
第一節 概 説	一
第二節 地 理	四
第一款 位 置	四
第二款 面 積	五
第三款 境 界	六
第四款 地 勢	八

第五款	土壤及植物	一〇
第六款	氣候	一一
第七款	人口	一五
第三節	行政文化	二〇
第一款	行政組織	二〇
第二款	財政	二一
第三款	文化施設	二二
第四節	交通	二五
第五節	産業	三一
第一款	農業	三一
第二款	林業	四五
第三款	漁業	五〇
第四款	狩獵業	五一
第五款	鑛産	五三

二

第六款	工業	五五
第六節	商業	五六
第二章	露領亞細亞ニ於ケル猶太人ノ歴史	五九
第三章	「ピロ、ビッジャン」區ノ植民	六七
第一節	「ピロ、ビッジャン」區ヲ移民地トシテ選定ノ徑緯	六七
第二節	「ソヅィエト」聯邦ニ於ケル猶太人植民機關及團體	六九
第三節	「ピロ、ビッジャン」區ヘノ植民	七二
第四節	「ピロ、ビッジャン」區ヘノ在外猶太人ノ移住	八四
第五節	猶太移民ニ對スル外國側ノ援助	八七
附	「ピロ、ビッジャン」區地圖	

三

「ソヴィエト」聯邦猶太人植民地 「ピロ、ビッジャン」區事情

第一章 猶太人植民地「ピロ、ビッジャン」區事情

第一節 概 説

猶太人授
職問題
露國ノ帝政時代ニ於ケル猶太人ノ地位ハ頗ル壓迫セラレタルモノニシテ居住ノ地域ヲ制限セラレ
産業上ニ於テモ各種ノ制限ヲ受ケタルヲ以テ充分ノ活動力ヲ發揮スルコトヲ得ス小規模ノ商工企
業及自由職業ニ従事スル者多數ヲ占ムル有様ナリシ處革命以來「ソヴィエト」政權ノ下ニ於テハ
是等ノ商工企業ハ全ク新經濟組織ニ融合セサルモノトシテ排除セラレ猶太人ノ失業者ハ頗ルニ其ノ
數ヲ増加スルニ至レリ茲ニ於テ國內ニハ少數民族保護ノ見地ヨリ猶太人授職問題擡頭シタルカ先
ツ猶太人ノ救済ニハ其ノ農民化ヲ遂行スルヲ以テ最モ實效アルモノト看做シ全露中央執行委員會
民族會議中ニ勤勞的猶太人植民委員會（コムゼット）ヲ設置シ猶太人救済問題ノ實際解決ニ任

セシムルコトセリ

同委員會ハ創立ト同時ニ勤勞の猶太人十萬家族(約百萬)ノ植民十ヶ年計劃ヲ樹立シ全露中央
執行委員會ノ承認ヲ得タルカ右計劃ニ依リ一九二五年以來三ヶ年間ニ約一萬二千五百家族ノ猶太
人ヲ「ウクライナ」、「クリミヤ」、北部「スタヴ」地方、白露及北部高加索地方ノ植民用地ニ移

住セシメタリ然ルニ大規模ノ植民計劃遂行ノ爲ニハ尙土地ノ不足ヲ感シタルヲ以テ三〇〇、〇〇〇
〇留ノ調査費ヲ支出シテ聯邦各地ニ於テ適當ナル地ヲ物色中偶々一九二七年「ブルック」教授ノ
指揮スル調査隊ハ黑龍江流域「ハバロフスク」市西方一帶ノ地ヲ發見シ猶太人植民用地トシテ選
定方中央政府ニ申請セリ仍テ政府ハ詳細審査ノ上一九二八年三月二十八日附全露中央執行委員會
決定ヲ以テ之ヲ認定シ同地方カ黑龍江支流「ビラ」河及「ビッジャン」河ノ流域ナルニ鑑ミ「ビ
ロ、ビッジャン」「ライオン」ト稱スルコトセリ

ビロ、
ビッジャン
ノ
境
定
時
ノ
境
域

最初決定セラレタル本區ノ境界ハ黑龍江岸「ハバロフスク」市ヨリ黑龍江ニ沿ヒテ上流ニ至リ
「バシコゾオ」村ニ至リテ北進「オブルチエ」驛ニ至リ同驛ノ北方二〇露里(一露里ハ吾カ九
町四十五間)ノ地點ニ於テ東折「ウズスリ」鐵道ニ併行シテ「ハバロフスク」市ニ出ツル面積約
二、五〇〇、〇〇〇「クタター」(二五、〇〇〇平方「キロメートル」)人口約三萬ノ地ニシテ「ハ

大
境
域
ノ
擴
展

ハバロフスク」管區中「ミハイロ、セメノフスキー」「ライオン」ト黑龍江管區中「エカテリノ、ニ
コリスキー」「ライオン」及「ヒンガノ、アルハリンスキー」「ライオン」ヲ以テ構成セラレ行政
區劃上ノ歸屬ニ付「ハバロフスク」管區ト黑龍江管區當局ノ間ニ紛争アリシカ本「ライオン」カ
經濟上「ハバロフスク」管區ト特ニ密接ナル關係ヲ有スルノ故ヲ以テ同管區ニ編入セラレタリ
然ルニ其ノ後管區ハ廢止セラレ「ライオン」ヲ擴大シテ行政區劃上ノ單位ト爲スニ至リタルカ
「ビロ、ビッジャン」「ライオン」ニ付テモ亦一九三〇年八月二十日附全露中央執行委員會ノ決定ヲ
以テ「ウズスリ」鐵道以北ノ地ニ於テ若干領域ヲ擴張スヘキ旨ヲ定メタリ併シテ右ノ決定ハ同年
十月一日以降實施セラレタリ

區
都
及
編
入
地

右一九三〇年八月二十日附決定ニ依レハ本區ハ左ノ諸地方ヲ以テ構成セラレ區都ハ本地方ニ於ケ
ル「ウズスリ」鐵道沿線ノ要驛「チーホニカヤ」(「チーホニカヤ」ハ其ノ後發展シ一九三二年ニ
至リ市政ヲ施行セラレ「ビロ、ビッジャン」ト改稱セラレタル趣ナリ)村ト定メラレタリ

- 「ミハイロ、セメノフスキー」區全部 一、〇二六、四四五
- 「ネクラートフスキー」區ノ一部 九二四、三三五
- 「エカテリノ、ニコリスキー」區全部 八五五、六〇九

三

「ビンガノ、アルハリンスキー」區ノ一部 一、〇五六、二七三
 右境域擴大ノ結果「ビロ、ビッジャン」區ノ面積ハ舊領ノ一倍半ニ當ル三、八六二、六八二「ヘクタ
 ー」(約三八、六〇〇平方「キロメートル」)トナリタルカ新併合地ハ人煙稀薄ナル邊陲地ナレハ
 人口ノ上ニ於テハ五、六千人ヲ増加シタルノミナリ
 斯クテ一九二八年以來「コムゼット」「オゼット」等ノ活動ニ伴ヒ植民事業ハ相當ノ成功ヲ收メ
 九三二年迄ニ六、〇〇〇名乃至八、〇〇〇名ノ猶太人ノ新移住者ヲ算スルニ至リタルカ當初ノ計劃
 ニ及ハサルコト尙遠キモノアリ當局ハ人煙稀薄ノ黑龍江北邊ノ地ニ開發セラレタル一地區ヲ與シ
 之ヲ足場トシテ經濟的開拓ヲ漸次他地方ニ及ホサントスルモノノ如ク「ビロ、ビッジャン」植民ノ
 成功ヲ重視シ諸機關ヲ鞭撻シ其ノ活動ノ指導及助成ヲ懈ラス又發電所、鐵道、道路住宅等ノ建設
 事業ヲ興シテ移民ノ區内全土ニ互リテ分布スルヲ計リ農業方面ニ於テハ「コルホーズ」化運動ヲ
 徹底的ニ行ヒテ全區ヲ驅テ一ノ「コルホーズ」ト爲スヲ以テ理想ト爲シ居ルモノト見受ケラル

第二節 地理
 第一款 位置

位置 「ビロ、ビッジャン」區(「ライオン」)ハ東徑一三〇度三分ヨリ同一三五度、北緯四七度四分ヨリ同

四八度八分ノ間ニ介在シ緯度上ニ於テハ吾カ南樺太ノ中部以北(南端ハ久春内、北端ハ名好ト緯
 度ヲ同クス)ノ地ニ比スヘシ「ハバロフスク」市以西ニ於テ「ウスリー」鐵道ノ南北兩地ニ跨リ
 南ハ黑龍江ヲ隔テテ滿洲國ノ黑龍江省ニ相對シ西及北ハ小興安嶺及其ノ支脈ヲ以テ繞ラサル

第二款 面積

面積 一九二九年「ビロ、ビッジャン」移民調査班ノ踏査シタル所ニ據レハ「ビロ、ビッジャン」區ノ全面積
 ハ三、八六二、六八二「ヘクタール」(約三八、六〇〇平方「キロメートル」)ニシテ之ヲ歐洲ノ各國
 ニ比スレハ「ロシアニア」ノ約三分ノ二、「ラトヴィア」ノ約五分ノ三ニ當リ白耳義、和蘭ヨリハ
 稍大、丁抹、瑞西ヨリハ稍小ナリ又猶太人ノ自治ニ委セララル「パレストアイン」ノ面積ノ一倍半
 ニ當リ吾四國ノ約二倍ニ該當ス

可耕地面

右ノ中農業上開拓シ得ル見込アルモノハ「ウスリー」鐵道沿線ニ六五〇、〇〇〇「ヘクタール」アリ
 右ノ外「ビロ、ビッジャン」鐵道豫定地調査(本鐵道ニ關シテハ第一章第四節交通ノ部ヲ參照ノコ
 ト)後ノ報告ニ據レハ尙一、五五〇、〇〇〇「ヘクタール」見當ノ開墾可能地(純草原及疎林ヲ生シ
 タル草原、山背ノ傾斜地等)アリトノコトニテ農業上將來合計二、二〇〇、〇〇〇「ヘクタール」ノ
 地ヲ利用シ得ヘキカ如ク傳ヘラレ居ルモ果シテ斯ノ如ク有望ナリヤ否ヤ頗ル疑問ナリ右以外ノ地

ハ何レモ山林ニシテ農耕上全ク利用ノ見込ナシ現在利用セラレ居ル地ハ平原地方ニ於テ約五「バ
ーセント」ニシテ山地ニ於テハ尙遙ニ小率ナリ土地利用率ノ斯クモ小ナル所以ハ平原地方ハ土地
甚タ濕潤ニシテ専ラ比較的高度大ナル土地ヲ耕作シツツアルニ因ル

第三款 境界

「ビロ、ビッジャン」區(ライオン)ノ領域ハ概説中ニ記述シタル如ク最初指定ノ地域ヨリモ擴
大セラレタルヲ以テ其ノ境界ニモ亦變更ヲ生シタリ即チ本區ノ境界ハ極東地方ニ於ケル區(ライ
オン)ノ制行政区劃ノ實施ニ伴ヒ一九三〇年八月二十日附全露中央執行委員會ノ決定ヲ以テ最終決
定ヲ見タリ

右ニ依レハ「ビロ、ビッジャン」區ノ境界ハ「ハバロフスク」市北方ニ於テ黒龍江ニ合流スル同江支流
「ツングースカ」ニ沿ヒタル線ニ始リ黒龍江ニ出テ南進シテ「グリヤーズナヤ」河及「ベシニヤ」
(第二黒龍江)ノ黒龍江本流(ノ合流點ニ至リ次テ「ハバロフスク」市ノ所管地(市設牧場)ヲ北
部ヨリ西部ニ迂廻シ更ニ黒龍江ニ出テ之ニ沿ヒテ上流ニ至リ「ヒンガン」河ノ合流點(「バシコ
オ」村)ニ至ル其ノ後黒龍江本流ヲ離レ右折シテ支流「ヒンガン」河ニ沿ヒテ北東進シ「オブル
ーチエ」村ノ稍東方ニ於テ「ウスリー」鐵道ヲ横切リ「ベズイミヤンヌイ」河ノ水源ニ至リテ急

角度ニ東折シテ小興安嶺山脈ニ上ル之ヨリ同山脈ニ沿ヒテ屈折東北進シ北方「アレヤ」河ノ左支
流(「サクロム」、「ヤウリン」、「トイルマ」ノ諸川)及南方「ビラ」河ノ左支流(「クワリドゥル」、
「カメヌーシユカ」、「サグドイ、ビラ」ノ諸川)ノ分水界ヲ縫ヒ「ベレナジ」河ノ水源地ニ至リテ
小興安嶺山脈ヲ離レ北東進シテ「ウルミ」河ノ右支流「コスムニ」河ノ水源ニ出テ同河ニ沿ヒテ
「ウルミ」河ニ出ツ之ヨリ同河ニ沿ヒテ「ツングースカ」河ニ出テ之ニ沿ヒテ黒龍江トノ合流點ニ
至ツテ止ム右ノ領域内ニ包含セラルヘキ地トシテ前記ノ決定中ニ定メラレタルモノ左ノ如シ

- (一) 「エカテリノ、ニコリスキー」、「ライオン」全部
- (二) 「ヒンガン、アルハリンスキー」、「ライオン」中左ニ掲クル村落
「ラツデ」、「ヂチユン」、「ウスベーフカ」、「カンドリク」、「バシコゾオ」、「ビラカン」(村及
待避驛)、「ビラ」(村及驛)、「ビルスキー」炭坑地、「ボリシヨイ、カタール」、「ブドカン」、
「イワノフカ」、「カトン」、「キムカン」、「クリドゥル」(村及温泉)、「ロンドコ、カメヌーシユカ」、
「ロンドコ」驛、「サグドイ、ビラ」、「ストロシエツヤ」及「トレク」(待避驛)
- (三) 「ミハイロ、セメノフスキー」、「ライオン」全部
- (四) 「ネクラツフスキー」、「ライオン」中左ニ掲クル村落

「アムール」(待避驛)、「ボスイ」、「ウイスシエ、スバスコエ」、「ウラヂミロフカ」、「ウエロチヤイエフカ」(村及驛)、「ダニエロフカ」、「デジネフカ」(村及待避驛)、「ザベロフスコエ」、「クバトイ」、「レウイ、ベレグ、アムーラ」(田莊)、「ルウゴワヤ」、「リヤムク、カラニ」、「ナウーモフカ」、「ネイトラーリヌイ」、「ニコラーエフカ」、「ニージニエ、スバスコエ」、「オリ」、「オリ、ゴフタ」、「イッポドロム」、「イン」、「ボクローフカ」(村及驛)、「サマロ、オルロフカ」、「テウヂ」、「トムスコエ」、「ウルミ」、「ウラノフカ」及「ホロン」

斯クテ「ピロ、ビッジャン」區ハ南方及西南方ニ於テハ黒龍江上ニ於ケル國境ニ依リ新興滿洲國ト相接壤シ(本區境界線ノ大半ニ當ル)北西ニ於テハ「ヒンガン、アルハリンスキー」區、北部ニ於テハ「ニジニエタムボフスキー」區ニ北東及東ニ於テハ「ネクラーツフスキー」區ト境ヲ接ス尙「ヒンガン」河ノ兩岸ニ跨ル「バシコヴオ」、「エサウロフスキー」、「オブルーチエ」ノ三村ハ前記ノ決定ニ依リ共ニ本區ノ境界外ニ置ク旨定メラレタリ

第四款 地 勢

山 岳

「ピロ、ビッジャン」區全面積ノ約六〇「パーセント」即チ西部、西南部及北部ハ小興安嶺山脈及「ブレイン」山系ノ支脈ノ連山ヲ以テ蔽ハル小興安嶺連山中標高最モ大ナル「ロンドロ」山(一、

一九五米)及「スタノヴィタ」山(五五〇米)ナリ山地外ノ地ハ一般ニ平原ヲ成セリ「アムール」低地即チ之ナリ平原ハ北方ヨリ南方黒龍江ニ、西方ヨリ東方ニ向テ下降セル傾斜ヲ爲ス「アムール」低地ハ小興安嶺ノ支脈ニ屬スル數多ノ小起伏ニ依リ横切ラル「ドプリンスキエ」連山(三三五米)、「ビッジャン」山(三〇五米)、「ダウール」山系(四九〇米)、大「チウルキ」山系及小「チウルキ」山系(七三〇米)、「クリドル」、山系(五一八米)等之ナリ

河 川

黒龍江ハ本區ノ南方ヲ弧形ヲ爲シテ流レ區内ヲ潤ス大小幾多ノ支流ヲ吞ム即チ西方境界ヲ流ルモノニ「ヒンガン」アリ東進下流ニ至ルニ從ヒテ「ボムベイエフカ」、「サマラ」、「オシーノフカ」、「ビッジャン」、「ピラ」、「シエノフ」ヲ併流ス東北部ニハ「ウルミ」河流レテ區ノ北部ヲ潤ス「ペレナジ」及「イン」ノ兩河ヲ吞ム「ビッジャン」河ハ興安嶺ノ支脈ニ源ヲ發シ區ノ中部ヲ南北ニ貫流スル一大水系ヲ爲ス「ピラ」河ハ區ノ西境興安嶺山中ニ源ヲ發シ數多ノ小流ヲ集メテ東進シ中流ニ及ヒテ南下黒龍江ニ合ス流域廣大ニシテ「ビッジャン」河ト共ニ本地方交通産業上大動脈ヲ形成ス

平 原

平原地方ハ雨量多ク傾斜緩漫ニシテ且草木ノ繁茂著シキニ因リ概ネ濕地ヲ呈セリ「ビッジャン」河

畔ニハ「セントウハリ」又ハ「ドルゴエ」ノ名ヲ以テ知ラレタル約五〇、〇〇〇「ヘクター」ニ互ル大沼地アリ

第五款 土壤及植物

山背地方
山背ノ傾斜地ハ主トシテ「シエダー」(西洋杉)、樅、「ピフタ」落葉松等ノ針葉樹ヲ以テ蔽ハレ間々樺、柳、白楊等ノ闊葉樹ヲ混ス山背ノ地ハ地殼殆ト露出シ居ルモ低地ニ降ルニ從ヒテ土壤ハ漸ク深サヲ増シ最大一米ニ達ス地質ハ灰分ヲ含メル粘土質ノモノニシテ肥沃ノ度大ナリト言フコトヲ得ス

山麓及山
山麓及山腹ノ地ニハ柳ノ植樹多ク其ノ間黒樺、菩提樹、「ヤーセン」、楓等雜生シ又山葡萄其ノ他ノ灌木ヲ混ス山麓及山腹ニ於ケル土質ハ細カキ砂礫ヲ混シタル含灰中粘土質ニシテ土壤ノ深サ約八〇「サンチメートル」其ノ内腐蝕土含有土ノ厚サハ八「サンチメートル」乃至七二「サンチメートル」ナリ

階地
山中ノ豁間ハ概ネ沼泥ニ滿サレ土塊ヲ混スルコト多シ此ノ地ニハ落葉松多ク又灌木密生セリ
低地
「アムール」低地及「ピラ」、「ピリジャン」兩河ノ豁間ノ地ハ雜草ノ密生セル大平原ヲ爲ス此ノ地ハ夏期雨量多ク土地ハ緩ナル傾斜ヲ爲シ且雜草繁茂スルヲ以テ雨水ノ流動及蒸發ヲ妨ケ土地常ニ

濕潤ニシテ到處池沼ヲ生ス土壤ハ密度ナル粘土質又ハ半粘土質ニシテ腐蝕土含有土ハ厚サ七「サンチメートル」乃至二〇「サンチメートル」ヲ示セリ平原ニハ所々ニ小丘陵アリ白樺及柳ノ小林立生セリ土質ハ概ネ半粘土質又ハ混砂土質ナリ
從來先ツ住民ノ開墾シタルハ之等ノ小丘陵地及山麓ノ斜面ニシテ低地ノ大部分ハ改良工事ヲ施シ相當大規模ノ排水設備ヲ爲スニ非サレハ今後直ニ之ヲ利用スルコト不可能ナリ

第六款 氣候

氣候
「ピロ、ピリジャン」區ハ年平均氣温及雨量上之ヲ二地方ニ分ツコトヲ得ヘシ一ハ山地ニシテ他ハ平地ナリ前者ハ氣温比較的寒冷ニシテ一年ノ平均温度ハ氷點下ヲ示シ雨量大ナリ後者ハ一年ノ平均温度ハ氷點ヨリ高ク雨量少ナリ今右兩地ヲ比較スルニ左ノ如シ

年平均 温度	雨量	植物成育期間	
		日數	毎日ノ平均 温度ノ總和
平 地 〔エカテリノ、ニコリスコエ〕村	101.1	110	174
山 地			163.3

雨量
〔ピラカン〕驛

本區ニ於テハ雨量ノ大部分ハ夏期六月乃至九月ニ屬スルモノニシテ右四箇月間ニ於ケル雨量ハ年
量ノ八五「パーセント」ニ達ス春ハ雨量少ク冬ハ降雪少量ニシテ寒氣強シ雪量ハ山地ニ於テハ二
〇乃至三〇「サンチメートル」平地ニ於テハ七乃至二〇「サンチメートル」ニ過キス
西比利亞及極東地方各地ノ雨量ヲ見ルニ

- 浦潮 斯德 五七〇^{mm}
- 「ベテロバウロフスタ」(勸察加) 九八七
- 「ブラゴヴェスチエンスク」 五〇〇
- 「イルクーツク」 三七七
- 「チ 塔」 三一九
- 「オム スク」 三二四
- 「ノヴォシビルスク」 三〇九
- 「トム スク」 四八五
- 「エニセイスク」 四二九

氣温

ナルヲ以テ「ベテロバウロフスタ」(勸察加)ノ如キ直接海洋ノ影響ヲ受クル地ヲ除クノ外「ウラ
ル」以西ニハ雨量ニ於テ「ピロ、ビラジャン」區ニ匹敵スルモノナク雨量比較的少キ平地地方ニ於
テモ尙克ク浦潮斯德、「ブラゴヴェスチエンスク」等雨量最モ多キ地ニ比スヘシ若シ夫レ山地地方
ニ至ランカ東西兩地西比利亞地方ノ各地ノ二倍乃至二倍半ニモ達スヘシ
寒氣最モ強キハ一月ニシテ山地ニ在リテハ平均零下二七度平地ニ在リテハ零下二二度ヲ示シ往々
ヒシテ零下三六―三七度ニ降ルコトアリ最モ暑キハ七月ニシテ山地ハ一九度平地ハ二七度ヲ通常
トシ甚タ大陸的ナリ霜雪ヲ見サル期間ハ山地ニ在リテハ五月十七日ヨリ九月二十日ニ至ル一三七
日間、平地ニ在リテハ五月十一日ヨリ十月七日ニ至ル一五〇日間ナリ土壤ノ凍結深度ハ二米ヲ通
常トス

西比利亞及極東地方各地ノ氣温ヲ見ルニ

	一月平均	七月平均	一月及七 月ノ温差	年平均
「ベトロフスタ」(後員加爾)	(一) 二七・六	(中) 一七・三	四四・九	不明
「チ 塔」	(一) 二七・〇	一九・〇	四六・〇	(一) 二・九
「スレーチエンスク」	(一) 三二・六	一九・九	五二・五	不明

「セ」	「一」	「ヤ」	(-) 二九三	一八九	四八二	(-) 同
「ブラゴエスチエンスク」	(-) 二三七	二一八	四五五	(-) 〇七		
「ハムロフスク」	(-) 二一三	二一〇	四二四	不明		
「ニコラエフスク」	(-) 二二九	一六二	三九一	同		
油湖	(-) 一三〇	一九〇	三二〇	四八		
「ボ」	(-) 一一九	一七一	二九〇	不明		
「ツェルホヤンスク」	(+) 五〇一	一五五	六五・六	(-) 一五九		
「サ」	(-) 一九三	一九七	三九〇	(+) 〇四		
「イルクーツク」	(-) 二一三	一七三	三八六	(-) 一四		
「ノグホ、シビルスク」	(-) 一九四	一九五	三八九	〇〇		
ニシテ之ヲ「ピロ、ピツジャン」區ノ						
平地	(-) 二二	二七〇	四七〇	(+) 一二		
山地	(-) 二七	一九〇	四六〇	(-) 〇九		
ニ比スレハ「ピロ、ピツジャン」地方ハ「ウラル」以東ノ露領各地中大陸的ニシテ氣候最モ酷惡ナル地ノ一ニ數フルコトヲ得ヘシ						

風位

風位ハ冬期ニ於テハ乾燥セル西風及西北風多ク夏期ニ於テハ太平洋方面ヨリノ濕氣ヲ送ル東風及東南風多シ全夏ヲ通シ早魃ヲ生スルカ如キコトハ過去ニ於テ曾テ見受ケサル所ナリ
 大洪水ヲ生シタルハ一八七六年、一九一五年、一九二八年及一九二九年ニシテ濕潤ナル草地及河岸ニ近キ村落ハ其ノ都度河川ノ氾濫ニ依リ完全ニ蹂躪セラレタリ低地ノ草原ニ氾濫スル程度ノ出水ハ普通三年目又ハ五年目毎ニ反覆セラレ居レリ洪水ハ七、八ノ兩月ニ最モ多キ所右ハ此ノ兩月ノ雨量特ニ多ク土地傾斜セルヲ以テ水勢速ニ川ヲ滿シ氾濫スルニ因ル

第七款 人口

人口 本區ノ人口ハ一九三〇年一月一日現在ノ調ニ依レハ合計三七、五〇〇名(内男二〇、四〇〇名)ニシテ其ノ中市部ノ住民約七、六〇〇名ナリ過去數年間ノ統計ヲ見ルニ一九二六年全聯邦人口調査當時ニ於テハ三二、七五三名(内中市部ノ人口六、二五五名)一九二八年一月一日現在ニ於テハ三四、三〇〇名(内中市部六、七〇〇名)、一九二九年一月一日現在ニ於テハ三五、九〇〇名(内中市部七、一〇〇名)ナリ(一九三〇年十月以來新境界制定セラレ區ノ面積モ擴張セラレタルヲ以テ茲ニハ新境界ニ關スル人口ヲ掲ケタリ因ニ舊境界内ニ於ケル一九二六年ノ人口ハ二七、三四四名ナリキ)

一九二六年人口調査ノ統計ニ依レハ同地方ニハ二八三ノ町村アリ内人口一〇〇名以下ノ部落一七
六ヲ算シタリ

重要町村ノ人口左ノ如シ

重要町村
人口

「イ」	三、一〇〇名 (一九二九年三、三八六名)
「ビ」	二、七〇〇名
「ビラカン」	二、一三三名
「チホーニカヤ」	一、二八八名
「ブラゴスロヴンノエ」	二、〇三九名
「エカチリノ、ニコリスコエ」	一、九六一名
「ミハイロ、セメノフスコエ」	一、一五三名
「ヴニンツェレヅ」	一、一四九名
「ブーシ」	一、〇七五名
「ビッジャン」	一、〇〇二名
「バプストヴ」	九三〇名

「クケレヅ」村

五六八名

(人口統計ニ關スル詳細ナル資料ハ一九二六年以來未タ發表ナキニ依リ茲ニハ同年ノ調査報告
ニ依ルノ止ムナキニ至レル所一九三二年ニ至リ首都「チーホニカヤ」ハ「ビロ、ビッジャン」ト
改稱セラレ市制ヲ施カレタケル趣ナリ)

民族割合

区内ニハ一八ノ民族アル所其ノ人口ノ民族別色彩ヲ見ルニ一九二六年ノ調査ニ據レハ

露西亞人	七二%
朝鮮人	一〇・五%
「ウクライナ」人	七・〇%
ヲ主トシ	
白人	一・六%
支那人	一・六%
土民	一・〇%
其他	六・三%

ナリ即チ露西亞人絶對多數ヲ占ムル處過去數十年間ニ黒龍江沿岸地方ニ移住セル「コザック」其ノ

基礎ヲ爲ス朝鮮人ハ第十九世紀ノ末葉沿海地方ヨリ移住シ「ブラゴスロヴェンノエ」村ヲ創設シタルモノニシテ區内ニ於テハ露西亞人ニ次キテ第二位ヲ占メタルカ（「エカテリノ、ニコリスキ」）地方ニ於テハ實ニ全人口ノ二四「パーセント」ヲ占メタリ）昨今猶太人遙ニ之ヲ凌駕シタル趣ナリ「ウクライナ」人及白露人ハ夫々「ウクライナ」白露地方ヨリノ移住民ニシテ土民ニハ「ツングース」及「ヤクト」人アリ共ニ凡ソ六十年前「クラスヌイ、ヤル」村地方ニ移住シ來レルモノナリ「ツングース」ハ狩獵ヲ以テ主タル生業トス「其ノ他」ノ中ニハ韃靼人、獨逸人「マギヤール」人並ニ「グルジャ」人、「オセチヤ」人、「イングシニヤ」人等ノ高架索族アリ猶太人ハ一九二六年ノ統計ニ於テハ之ヲ別個ニ計出シタルモノナク、「其ノ他」ト合算シテ六・三%ヲ計上セラレ居ル處元來本地方ニハ猶太人ノ居住スル者極テ少數ニシテ一九二八年植民開始前ニ於テハ精々二百名内外ナリシモノト推測セラレ其ノ後増加シテ一九二九年春ニハ約一、五〇〇名トナリ一九三〇年十月現在ニ於テハ區内人口ノ六・五「パーセント」程度即チ二、四五〇名ヲ算シタリ猶太人ノ人口ニ關スル詳細ナル數字ハ一九三〇年夏ニ關スルモノノ外發表セラレ居ラザルモ（一九三一年夏ニハ四、〇〇〇名見當ノ猶太人ヲ數ヘ内手工業者六〇〇名ナル旨新聞ニ發表セラレタルコトアリ）各種ノ情報ヲ綜合スルニ一九三〇年中約二、〇〇〇名、一九三一年約一、五

〇〇名、一九三二年第一期（一、二、三ノ三ヶ月間）約一、二〇〇名ノ新移住者ヲ加ヘ一九三二年四月現在ニテハ六、〇〇〇名乃至八、〇〇〇名ニ達スルモノト觀察セラルル果シテ然リトセハ全今口ニ對スル割合ハ約一七・二〇「パーセント」ニ増大シ朝鮮人ヲ遙ニ凌キ露西亞人ニ次キ第二位ニ當ル元來本區ノ人口ハ甚タ少ニシテ四萬見當ニ過キサレハ猶太人植民ノ現勢ヲ以テセハ今後數年ニシテ露西亞人人口ヲ凌駕シ「ピロ、ビッジャン」ヲシテ名實共ニ猶太人民族區ナラシムルノ日モ遠キニ非ザルヘキヲ思ハシム（一九三二年發行「イエ、ワルネーエフ」著「ピロ、ビッジャン」ニ據レハ一九三二年ニ於ケル猶太人數既ニ二、〇〇〇ニ達スル趣ナルモ計算ノ根據薄弱ナリ）人口ノ密度ハ一平方「キロメートル」ニ付〇・八三人ニシテ甚タ小ナリ比較ノ爲「ソヴェト」聯邦全土及極東各地ノ人口密度ヲ掲ケンニ

「ソ、ヴェト」	聯邦全土	二五八
浦潮	斯德管區	七・六
「チ	タ」	同
「スレーチ	ニンスク」	同
「アム	「ール」	同

「ハバロフスク」 同
「ニコラエフ」 同
北 樺 太 同

一〇一
〇〇七
〇・四

二〇

ニシテ僅ニ「ニコラエフ」管區及北樺太ニ優ルノミニテ「ソヴエト」聯邦全土平均密度ノ三十分ノ一ニ當ルヲ知ル若シ夫レ日本全土ノ平均人口密度一平方「キロメートル」當リ一六九人ニ比セレカ二百分ノ一ニモ達セサル程ナリ

第三節 行政文化

第一款 行政組織

本區ハ獨立セル行政單位ニシテ管區廢セラレタル今日ニ於テハ行政上極東地方機關ヲ經テ露西亞社會主義聯邦「ソヴエト」共和國ニ屬ス區ノ最高機關ハ區執行委員會ニシテ區ノ中央機關ハ區都「チーホニカヤ」村（一九三二年「ピロ、ビッジャン」ト改稱セラレレ市政ヲ施キタル趣ナリ）ニ設ケラル「チーホニカヤ」ハ「ハバロフスク」市ノ西方一七〇「キロメートル」ノ地ニ在ル「ウスリ」鐵道上ノ驛ニシテ略本區ノ中央ニ位ス
區執行委員會ノ下ニ村「ソヴエト」ヲ置ク一九三〇年七月一日現在ノ調査ニ據レハ「ピロ、ビッ

ジャン」區内ニハ合計六四ノ村「ソヴエト」アリ其ノ内特殊ノ民族村「ソヴエト」ハ猶太人三、朝鮮人四、地方土人ニヲ算ス

地方土人村「ソヴエト」ハ「ピロ、ビッジャン」區中「ウスリ」鐵道ヨリ稍北方ノ地ヲ同鐵道ニ沿ヒテ東西ニ劃シタル線ヨリ北ノ地ニ設ケラレ一九三〇年十二月一日附全露中央執行委員會決定及一九三一年二月三日附極東地方執行委員會決定ヲ以テ定メラレタル極東地方北部民族ノ民族管區及民族「ライオン」區劃上ニ於テハ「クラーカン」村ヲ中心トスル「アムール、ツングースコ、ゴリスキー」土民「ライオン」ニ合マル

第二款 財政

「ピロ、ビッジャン」區執行委員會ハ一九三〇年十月一日始テ設置セラレタルモノニシテ同年以後ノ區ノ豫算ニ付テハ詳ナラサルモ一九三〇年ノ同區ノ豫算トシテ極東地方財務部ノ編成シタル豫定表ニ據レハ支出ハ總計八五四、二〇〇留ニシテ内教育關係ノ支出三八一、七〇〇留、衛生關係一七〇、五〇〇留、農業關係八三、三〇〇、地方「ソヴエト」及執行委員會關係（行政費）一〇七、二〇〇留ナリ右豫算ノ外臨時費トシテ「チーホニカヤ」驛ニ於ケル區ノ行政機關建築費トシテ五〇〇、〇〇〇留ノ特別支出計上セラレタリ

三二

學校 一、學校

第三款 文化施設

本區ニ於テハ「ウスリー」鐵道敷設以來其ノ従業員子弟教育ノ爲沿線各地ニ小學校開設セラレ
 近來移民機關及「ソグホーズ」ニ依リ經營セラルル學校モ追々増加シ來レルカ之等特種機關ニ
 依リ維持セラルル學校ヲ除キ一九三〇—三一年度ニ於テ區執行委員會ノ經費ニ依リ維持セラレ
 タルモノハ第一級小學校三八（一九二九—三〇年度ニハ二八）、農村青年學校五（一九二九—三
 〇年度ニハ開設セラレタルモノナシ）ナリ

「ウスリー」鐵道、移民機關、「ソグホーズ」經營ノ學校ハ一九二九—三〇年度ニ於テハ
 第一級小學校 二八
 七年制小學校 五
 ノ三三校ニシテ區執行委員會ノモノト合セテ六一校ヲ算セリ之ヲ市部ト村部ニ分ツニ左ノ如シ

市 部	學校數	級數	職員數	生徒數	七年學校中第一級學 校該當級在學者
第一級小學校	三	一〇	七	二五四	
七年制小學校	一	一五	一八	五二二	三四三

計 四 二五 二五 七六六 三四三

村 部

第一級小學校	五三	一五七	七七	二、七六五	
七年制小學校	四	三八	四五	一、二九九	九一六
計	五七	一九五	一二三	四、〇六四	九一六

全 區

第一級小學校	五六	一六七	八四	三、〇一九	
七年制小學校	五	五三	六三	一、八一	一二五九
計	六一	二二〇	一四七	四、三八〇	一二五九

右ノ内特殊民族學校ヲ掲タルニ左ノ如シ

朝鮮人第一級小學校	三	八	四	四〇	
猶太人第一級小學校	二	八	三	七三	
「ツングース」族第一級小學校	一	二	一	二二	

（註）第一級小學校ハ四年制ニシテ右表中「七年制度小學校中第一級小學校該當級在學者」トアルハ四年級迄ノ在學者

醫療衛生施設

ナリ

本區ニ於ケル醫療衛生施設カ「ウスリー」鐵道、移民機關、「ソグホーズ」等ノ特殊機關ニ依リ經營セラルルモノ多キハ恰モ學校ノ場合ニ於ケルカ如シ一九三〇年中ニ於ケル之等特殊機關並ニ區執行委員會經營ノ各種保健施設ヲ一瞥セハ左ノ如シ

施設	施設數	收容人員	醫員數
農村病院	七	三三二	三九
補助醫員派出所	八	—	一七
補助醫員及助産婦派出所	—	—	三
婦人子供健康相談所	—	—	三
季節的托兒所	—	二四〇	—
病院附屬實驗所	—	—	—
療養所(溫泉)	—	二六〇	四
計	二〇	五三二	六六

山間地方ニ於ケル工業開發計劃及平原地方ニ於ケル社會主義的大規模農事經營ニ關スル計劃ノ實現スルニ至ルト共ニ近キ將來ニ於テ文化施設ヲ著シク擴張スルノ要アリ當局ハ「オゼット」等ノ援助ノ下ニ近來文化方面ノ活動ニ特ニ意ヲ用ヒツツアルモノノ如シ

第四節 交通

鐵道 「ウスリー」鐵道ハ「オブルーチエ」驛ヨリ「ボクロフカ」驛ニ至ル延長三三〇「キロメートル」ニ互リ本區ヲ西ヨリ東ニ横斷ス沿線各驛中主ナルモノハ「ビラ」、「チホーニカヤ」、「イン」等ナリ尙莫斯科政府ハ本區ノ開發ニ資スル爲メ新鐵道ノ施設ヲ計劃シ曩ニ踏査班ヲ派シテ實地踏査ヲ爲サシメタルカ右ハ「ピロ、ビッジャン」鐵道ト稱セラレ一九三一年度中ニ起工スヘキコトヲ豫定セリ本鐵道新設計ニ關シテハ何等詳細ナル發表無キモ豫定圖ニ付テ見ルニ首都「ウスリー」鐵道「チホーニカヤ」驛ヲ起點トシ黑龍江沿岸ノ「エカテリノ、ニコリスコエ」村ニ至ル全長約二〇〇「キロメートル」鐵道ニシテ「ピロ、ビッジャン」區ノ中部ヨリ南西ニ擴カリ小興安嶺山脈ト黑龍江トノ間ニ介在スル「ビラ」、「ビッジャン」兩河沿域ノ平地ヲ縱貫シ猶太人ノ植民開始以來新設セラレタル諸部落ヲ連ヌルモノナリ其ノ豫定經路ヲ若干詳述センニ本鐵道ハ「チホーニカヤ」驛ニ於テ「ウスリー」鐵道ヨリ分岐シ「ビラ」河東岸ニ沿ヒテ南下シ「ワルドゲイム」、「クラスヌイ、ヴァストーク」兩

部ヲ經テ「プロンキナ、プロトカ」ニ至ル茲ニ於テ西折シテ「ビラ」河ヲ渡リ「ウリドリ」山系ノ北麓ニ沿ヒテ西南進シ「ビロフエリド」(新猶太郎落)ニ至リ其ノ南方ニ於テ「オン、ビラ」河ヲ横切ル以後依然トシテ西南ヲ指シ「ビッジン」河ヲ過キ「ビッジャン」村經由後ニ於テハ殆ト南ニ向ヒ「オン」ノツヤ「サマラ」兩河ヲ超エテ終點地タル「エカタリ」ノ、ニコリスコエ」ニ出テ黒龍江ヲ隔テテ滿洲國ニ臨ム本鐵道ハ今後經濟上ノ中心地トナルヘキ區内ノ要地ヲ通貫スルヲ以テ其ノ産業開發上重要ナルコトハ今更説明ノ要ナキ處、沿域ノ開墾可能地ハ一、五五〇、〇〇〇「ヘクター」ニ及フト傳ヘラル)他面露領極東地方ニ於テ交通ノ中樞神經ヲ爲ス「ウスリー」鐵道ヨリ滿洲國ノ背部ニ出ツル有力ナル交通路トシテ特ニ重大ナル價值ヲ有スルヲ認ムヘシ從來「ハバロフスク」市以西ニ於テ「ウスリー」鐵道ヨリ滿洲國ノ背後ニ出ツル支線トシテハ「アルハラ」驛ヨリ分レテ滿洲國島雲ノ對岸「イノケンチエフスカヤ」村ニ至ル約四〇「キロメートル」ノモノ竝ニ「アレクサンドロフスク」驛(舊稱「ボチカレヅ」)ヨリ分レテ大黒河ノ對岸「ブラゴヴェシチェンスク」市ニ至ル全長一〇九「キロメートル」ノ二線アリタルカ其ノ起點ハ極東地方ノ首都ニシテ政治、經濟ノ中心地タリ且又極東特別赤旗軍司令部ノ所在地タル「ハバロフスク」市ヲ去ルコト餘リニ遠ク(「アルハラ」ハ約四〇〇「キロ」,「アレクサンドロフスク」ハ約六〇〇「キロ」)軍事、經濟上

ノ價值尠キニ反シ「ビロ、ビッジャン」鐵道ハ「ハバロフスク」ヲ去ルコト僅ニ一七〇「キロメートル」ノ「チーホニカヤ」驛ニ起點ヲ有シ「ハバロフスク」ヨリ露滿國境ニ出ツル經路トシテハ最モ有力ナルモノナナルヘシ後述ノ「ビラ」河架橋工事ノ如キモ本鐵道第一期計劃ニ關スルモノニ非サト觀測セラル

水路

水路ハ本地方交通ノ生命ニシテ黒龍江ハ中流ニ於テ變々五五〇「キロメートル」(「バシコグオ」村ヨリ「ツングースカ」河ノ合流點ニ至ル)ニ亙リテ本區ヲ潤シ上下ニ舟運ヲ通シ本地方ヲ「ハバロフスク」市及河口ト連絡セシム其ノ他ノ河川中舟楫ノ便アルモノトシテハ「ツングースカ」「ピラ」ノ二川ヲ舉クルコトヲ得「ツングースカ」河ハ七〇「キロメートル」ノ區間舟楫ヲ通シ汽船ノ便アリ「ピラ」河ハ河口ヨリ「チーホニカヤ」驛ニ至ル一三〇「キロメートル」ノ區間舟ヲ通シ一九三一年ヨリ汽船ニ依ル航路ノ開始ヲ計劃セラレ居リタルモ其ノ結果ニ付テハ詳ナラス其ノ他ノ諸川ハ單ニ流筏ノ便アルノミナリ

以上ノ諸川ハ何レモ其ノ源ヲ興安嶺及其ノ支脈ニ發シ南流又ハ東流シテ黒龍江ニ合スルモノニシテ其ノ主要ナルモノノ長サ左ノ如シ

「ピラ」

三〇〇「キロメートル」

「ピッ ジャン」 一六〇
「ドーブラヤ」 四三
「ボリシャヤ、サマラ」 六四
「ボムペーエフカ」 五〇
「ディチューン」 五〇
「ツングースカ」 七五

道路

流域ノ最モ廣大ナルハ「ピラ」「ピジャン」ノ兩河ニシテ前者ハ九、六六四平方「キロメートル」(約百萬「ヘクタール」)即チ本區面積ノ四分ノ一、後者ハ七、四九七平方「キロメートル」(約七十萬「ヘクタール」)即チ本區面積ノ五分ノ一ヲ算ス

道路ハ本區ニ於テハ比較的少シ然レモ革命前ノ敷設ニ係リ戰時中荒廢ニ委セラレ「ソグイエト」政權樹立後モ久シク道路ヲ補修シ維持スルノ餘裕ナカリシヲ以テ橋梁ハ或ハ腐蝕シ或ハ燒失シ道路ハ全ク破壞セラレ車馬ノ通行モ冬季河川、沼澤ノ結水中ヲ除ケハ極テ稀ナル有様ナリ

キ一九二八年「ハバロフスク」移民調査隊ハ「チーホニカヤ」驛ヨリ「アレクサンドロフスコエ」村ニ至ル延長五〇「キロメートル」ノ道ニ完全ナル補修ヲ爲シ橋梁ヲ架替ヘタルヲ以テ現在ニテ

鐵橋

ハ自動車ヲモ通シ得ル状態ニ復シ「チーホニカヤ」驛ニ來集シ南下シテ「アレクサンドロフスコエ」村附近ニ設ケラレタル移民收容地及「ピラ」農事試驗場附屬農地ニ赴ク移民ノ輸送路トシテ重要トナレリ又「チーホニカヤ」驛ヨリ南方「ピラ」河ニ沿ヒテ「ワルドグイム」「クラスヌイ、グオストーク」ヲ經テ「ブロンキナ、プロトカ」(共ニ一九二七年以來生セル猶太人部落)ニ至ル道路モ完成シ其ノ中「チーホニカヤ」「ワルドグイム」間約二「キロメートル」ハ乗合自動車ノ定期運行ヲ見ルニ至レル雖ナリ他面未完成ノ儘放置セラレ居タル「チーホニカヤ」驛ヨリ北方「ゼレズヌイ、ヤル」ニ至ル道路モ一九二八年中工事を開始セラレタリ南部地方ニ於テハ黑龍江沿域ノ各部落ヲ連絡スル道路アルモ荒蕪甚クシク昨今漸ク所々修復セラレ居レリ要之區内ノ道路網ハ植民事業ノ進捗ニ伴ヒ先ツ「チーホニカヤ」ヲ中心トスル一帯ノ地ニ於テ擴張又ハ修復セラレ漸次他ニ及フヘキ状態ニ在リト言フヲ得ヘシ

本地方ノ開發上最モ重要ナル意義ヲ有スルハ「ピラ」河ノ架橋工事ニシテ由來「ピラ」河ニハ橋梁ノ架セラレタルモノナク移民及其ノ荷物ハ僅ニ「チーホニカヤ」驛附近ニ設ケラレタル大型ノ渡船ニ依リ辛シテ運搬セラレ居タリ殊ニ不便ノ甚シキハ重量大ナル「トラクタール」ノ運搬ナリシカ當局ハ愈々「ピラ」河ニ鐵橋ヲ架設スルコトトシ昨年來工事中ナリシカ一九三二年夏「ハバロ

フスク」市ニ開催セラレタル極東地方執行委員會議ニ於ケル報告ニ依レハ右鐵橋ハ同年中ニ竣工セシムル爲工事を急キツツアル趣ナリ

通信官署ハ一九三〇年十月一日現在ニ於テハ左記二一個所ニ設置セラル右以外ノ部落ハ巡廻郵便局ニ依リ通信連絡ヲ維持セラレ居レリ

通信官署ノ種類

- | 地名 | 種類 |
|---------------------------|-------|
| 一、「アムールゼット」(猶太移民ノ「コルホーズ」) | 郵便 |
| 二、「ピラ」町 | 郵便、電信 |
| 三、「ピラカン」町 | 郵便、電信 |
| 四、「ピロフニリド」村(猶太移民ノ「コルホーズ」) | 郵便、電信 |
| 五、「ブラゴスゲンノエ」村(朝鮮人多シ) | 郵便、電信 |
| 六、「ツェンツェレグ」村 | 郵便、電信 |
| 七、「ウラヂミロフカ」村 | 郵便 |
| 八、「ゾロチヤエフカ」村 | 郵便、電信 |
| 九、「エカテリノ、ニコリスコエ」村 | 郵便、電信 |

- | | |
|--------------------|---------------|
| 一〇、「イン」町 | 郵便、電信 |
| 一一、「キムカン」驛 | 郵便、鐵道電信 |
| 一二、「クリドール」療養地 | 郵便、電話 |
| 一三、「ロンドコ」町 | 郵便、鐵道電話 |
| 一四、「ミハイロ、セメノフスコエ」村 | 郵便、電信 |
| 一五、「ナデーシンスコエ」村 | 郵便、電信 |
| 一六、「ニコラー、エフカ」村 | 郵便 |
| 一七、「ノゾクローフカ」村 | 郵便 |
| 一八、「ボタロフカ」驛 | 郵便、鐵道電信 |
| 一九、「ボムベエフカ」(田莊) | 郵便、電信 |
| 二〇、「ラヂ」村 | 郵便、電信 |
| 二一、「チーホニカヤ」 | 郵便、電信、電話(區支局) |
- 電信線及電話線ハ「ウスリー」鐵道ニ沿ヒテ敷設セラレ居リ尙「チーホニカヤ」「ミハイロ、セメノフスコエ」村間ニハ長距離電話ノ架設アリ

第五節 産 業
第一款 農 業

農耕業 農業ハ主トシテ黒龍江沿域ノ「コザック」部落ニ於テ盛ニシテ穀物ノ耕作ヲ主トシ牧畜ヲ従トスル
状態ナリ農耕法ハ粗笨的ニシテ休閒地ヲ多ク包藏シ科學的輪作法實施セラレ居ラス

耕具 耕作ニハ主トシテ馬匹ヲ用ヒ二頭又ハ三頭立ヲ普通トスレ共未開墾地ノ開拓ニハ四頭立ヲ用フ耕
具中最モ多ク使用セラルルハ「サッカ」ト稱セラルル鋤ニシテ「ズメイカ」及「サモリョート」ノ
兩種之ニ次ク「トラクター」ニ依ル耕作ハ一九二七年「コムゼット」調査隊カ試験的ニ行ヒタルヲ
以テ嚆矢トセル處其ノ後「オゼット」ノ活動盛トナルニ伴ヒ年々増加シテ一九三一年春ニ於テハ農
業機械「トラクター」ステーション「ハ」五三台ノ「トラクター」ヲ所有シ尙同年中二台ノ供給ヲ
受クル豫定ニテ「ソグホーズ」ニ於テハ右ノ同年夏五九台ノ「トラクター」ヲ活用スル計劃ヲ
樹テタリ未開墾地ノ開拓ニ最モ適スルハ「クレトラク」型「トラクター」ニシテ「フォードソン」
ハ本區處女地ノ開墾ニハ有效ナラス犁均シニ用ヒテ妙ナリトノコトナリ尙「オゼット」ハ「トラ
クター」ノ外自動車八台、土掘機二台、道路工用「ローラー」一台ヲ購入シ修繕工場ヲモ設置
セリ

農戶一戸
當リノ作
付反別

一戸當リノ平均作付反別ハ一九二七年ニ於テハ四・九「ヘクター」乃至五・四「ヘクター」ナリシカ
一九二九年ニ於テハ三・九「ヘクター」ニ減シタリ

右ハ一九二八年中本地方ハ洪水ニ襲ハレ農作物ニ多大ノ損害ヲ與ヘタルト一九二八年春播用種子
不足シタルトニ原因ス

「ウスリ」鐵道沿線ノ地ニ於テハ一戸當リノ平均作付反別ハ僅々〇・五「ヘクター」ニ過キササル有
様ナルカ右ハ沿線地ニ於ケル作付ハ何レモ(一)屋敷内ノ畑地ヲ主トスルコト、(二)狩獵及其ノ他
ノ産業ノ方收益多キ爲農業ヲ專營スル者少キコト、(三)沿線ノ山地ハ土壤固ク耕作困難ニシテ「チ
ーホニカヤ」驛ヨリ「ボクロフカ」驛ニ至ル平地餘リニ濕潤ニシテ耕作ニ不適當ナルコト等ノ數多
ノ事情ニ原因スルモノナリ

作物

作物中最モ作付多キハ小麦及燕麥ニシテ春時裸麥及蕎麥之ニ次ク工業原料用作物(例ヘハ亞麻、
日向葵、烟草等)ハ栽培セラルルモノ少シ馬鈴薯ハ主トシテ菜園及屋敷内ニ栽培セラル
一九二九年及一九三〇年ニ於ケル「ピロ、ビッシン」區ノ各種作物ノ作付段別ヲ掲クレハ左ノ如
シ(單位「ヘクター」)

一九二九
年及一九
三〇年ノ
作付反別

	一九二九年	一九三〇年
春 蒔 裸 麥	一、三二〇	一、〇四四
小 麥	五、一一〇	八、八二八
燕 麥	三、三四〇	五、六九四
大 豆	六九〇	九九八
其ノ他ノ作物	二、四一一	三、一三六
屋敷内ノ作付(蔬菜類)	九四二	一
計	一三、八〇三	二〇、八六四

一九三〇年ノ作付ハ一九二九年ニ比シ五〇「パーセント」以上ノ増加ヲ示シタルカ右ハ主トシテ猶太人移民及「コルホーヅ」ノ作付ノ増加シタルニ起因ス。「コルホーヅ」ハ全作付反別ノ六九「パーセント」ヲ占メタリ。猶太人移民(殆ト全部「コルホーヅ」員ナリ)ノ作付段別ハ右ノ中約「二・五」「パーセント」ニ當リ「二・六五」「ヘクター」ヲ算セリ
一九三二年春ニ於テハ作付反別ヲ一九三〇年ノ二倍半ニ増加セシムル爲
「ソヅホーヅ」 一八、〇〇〇

「コルホーヅ」 二五、〇〇〇
個人 農 業 一、〇〇〇
計 五四、〇〇〇

ノ播種ヲ計劃セルカスカル無謀ノ計劃成功スル筈ナク漸ク七七「パーセント」ノ作付反別ヲ増加シタル趣ナリ然モ之トテモ「ソヅエト」側ノ發表ナレハ何ノ點迄真ナルヤ疑ノ余地アリ尙一九三一年ニ於テハ製油原料用ノ作物栽培計劃ヲ樹テ粒穀「トラス」所管ノ「ソヅホーヅ」ハ卒先シテ大豆三、〇〇〇「ヘクター」ノ播種ヲ爲シタル趣ナリ
蔬菜ニハ馬鈴薯、甘藍、胡瓜、「トマト」、西瓜、大根、人蔘、葱等アレ共何レモ地方住民ノ消費ニ充テラルルニ過キス米ニ關シテハ當局ハ特殊ノ作物トシテ相當意ヲ用ヒ居ルニ鑑ミ左ニ若干記述スヘシ

米作
米ハ一九二二年「ブラゴスロヴェン」村ヲ中心トスル附近一帯ノ朝鮮人住民間ニ試作セラレタルカー「デシヤチーナ」當リ三〇〇布度(一反歩當リ七、八俵ノ割)ノ良收穫アリテ以來急ニ地方住民ノ注意ヲ惹クニ至リ現在ニテハ「チーホニカヤ」驛ヲ去ル二〇「キロメートル」附近ニ箇所ニ「クラスヌイ、オクチャブリ」ト稱セラルル米田アリ是亦朝鮮人「アルテロー」(農業組合)

ノ經營ニ係リ「デシヤチーナ」當リ一八〇布度乃至二三〇布度ノ收穫ヲ舉ケツツアリ（「デシヤチーナ」ハ一町一段四畝八歩、一布度ハ四貫三百六十匁ナレハ吾カ反當リノ收穫ハ四俵半乃至六俵ナリ）本地方ハ雨量多キモ土地北ニ偏スルヲ以テ極早生種ニ非サレハ相當ノ收穫ヲ舉ケ得サル事情アリ吾カ北海道種、朝鮮等ヲ輸入栽培シ居レリ水田ハ現在一部ノ朝鮮人ニ依リテ經營セラレ居ルモノニシテ將來アルモノト思ハレヌ何トナレハ露西亞人、猶太人ハ勿論一般ニ地方住民ハ泥水中ノ勞働ヲ嫌惡スル傾向アレハナリ極東地方執行委員會議長代理「マモノフ」ハ一九二七年訪日視察團ノ一員トシテ本邦ニ渡來シ親シク吾ガ水田事業ヲ見學シタルカ日本ニ於ケルカ如キ小規模ノ集約的米田經營ハ極東露領ノ如キ廣大ナル土地ノ開發ヲ目的トスル農村經營ニハ應用ノ余地ナキモノニシテ極東地方ニ於テ米作ヲ振興セントセハ亞米利加式ノ機械耕作ノ法ニ依ラサルヘカラサルヘシト語り暗ニ米田經營ノ見込少キコトヲ仄カシタルコトアリ

收穫率 各種作物「デシヤチーナ」當リノ收穫率ヲ示セハ

小 麥 四五―五〇
 春 蒔 裸 麥 五〇―五五
 燕 麥 五五―六〇

蕎 麥 三五―四〇
 大 豆 一〇〇
 米 一八〇―二三〇
 馬鈴薯(無施肥) 五〇〇

ニシテ歐羅巴地方ハ勿論西北比利各地ニ比シ著シキ遜色アリ右ハ主トシテ氣候上ノ原因ニ歸スルモノニシテ本地ニ於テハ第二節第六款ニモ記述シタル如ク雨量著シク多キモ其ノ大部分ハ七、八、九ノ三ヶ月ニ集中セラレ居ルヲ以テ春期發芽期及成育期ニ於テハ湿度不充分ナルニ反シ夏期ニ於テハ雨量過多ニシテ結實及收穫ヲ妨ケ間々洪水ヲ生スルノ弊アリ牧草ニ付テモ亦夏期ニ於ケル過度ノ雨量ニ禍セララルコト少カラス即チ牧草刈取期ニ於テ降雨多ク諸川ハ氾濫シテ何レモ其ノ流域ヲ沼澤ト化セシムルヲ以テ牧草ニハ泥土密着シ飼料トシテ用フルコト能ハサルニ至ル（之ヲ家畜ニ與フレハ發病斃死ヲ誘致ス）

牧畜業

本地方ノ牧畜業ハ大體左記ノ數字ニ依リテ之ヲ窺ヒ知ルコトヲ得ヘシ

一九二八年 一九三〇年
 馬 匹 一四、三二一 不 明
 三七

内
勞役用馬匹 八、八三六
八、三六九
二〇、四七六
不 明

牛 九、〇二六
七、八三一
豚(一年以上ノモノ) 五、二三一
三、〇一六
羊及山羊 六、七七七
二、八〇〇
蜜 蜂 窩 一、七四〇
不 明

一九三〇年ニ於ケル家畜數ノ著減ハ一九二八、二九兩年度ニ於テ本地方ヲ襲ヒタル水害ニ因ルモノニシテ牧草ニ密著シタル泥土ノ爲家畜ノ斃死スルモノ相次キ其ノ結果牧畜業及養蜂業ハ著シク不振ニ陥リタルニ因ル

沿黒龍江地方ノ牧畜業ハ粗笨的ニシテ家畜ハ周年野外ニ放牧セラルル專ラ肉用牛豚ノ飼養及馬匹ノ飼養ヲ目的トシ牛馬ノ余剩ハ市場ニ搬出セラレ牧畜上ノ產物ト稱セラルルハ專ラ此ノ部分ニ限ラル馬匹ハ背丈低キモ骨格頑丈ニシテ頗ル耐久力強シ牛ハ蒙古種ニ屬シ形體小ニシテ從テ乳量モ少

養蜂業
シ(一年ノ搾乳漸ク四石乃至五石ニ過キス)然レ共昨今鐵道沿線ノ諸部落ニ於テハ家畜群中土産牛ノ改良種漸ク増加ノ傾向見受ケラル本地方ニ於ケル牧畜業發達上ノ障害トシテ著シキハ馬蠅ノ害ニシテ夏期ニ入ルト共ニ畜類ヲ著シク衰弱セシメ體量及乳量ヲ激減セシムルヲ以テ昨今比較的設備整ヒタル「コルホーズ」ノ牧場ニ於テハ盛夏ノ候ヲ通シ毎日午前十一時ヨリ午後三、四時頃迄之ヲ畜舎ニ收容シテ蠅群ノ襲撃ヲ避ケシメ居レリ

養蜂業
「ピロ、ビッジャン」區ニ於テハ養蠶ヲ普及發達セシメ得ル可能性アリトテ當局ハ桑苗ノ植樹並ニ蠶ノ飼養ニ興味ヲ有シ居ルモノノ如シ最近「ブラゴスロヴェン」村ヲ中心トスル各地ノ朝鮮人間ニ若干ノ掃立ヲ見タルモ目下ノ所試驗ノ範圍ヲ出テス

養蜂業
養蜂業ハ一九二八年迄ハ山地ニ於テ急速ニ發達シ一窩ノ密量年克ク四〇―五〇「キログラム」ニ及ヒ蜂窩數モ同年中一一、七四〇ヲ算シタルカ一九二八、二九兩年ニ於ケル雨量余リニ多量ナリシ爲蜂群ノ亡フルモノ相次キ本地方ニ於ケル蜂窩數ハ急激ニ減少セリ一九三〇年猶太人移民團ハ養蜂業ノ更生ヲ期シ「ピロフェリド」地方ニ於ケル「コルホーズ」ノ事業トシ蜂窩一二五〇ヲ有ル大養蜂場ヲ開設セリ

住民ノ生
一九二七年派遣セラレタル「コムゼット」調査班ノ作成ニ係ル農戶ノ家計調査資料ニ據レハ沿黒龍

江地方ノ住民ノ主タル所得ノ源泉ハ農業ニシテ農業收入中牧畜ニ關スルモノハ相當多額ニ上リ屠
レリ養蜂業ハ目下ノ處特ニ見ルヘキモノナク舊「ミハイロ、セメノフスキー」地方ノ諸部落及朝
鮮人部落ニ於テハ殊ニ不振ナル趣ナリ

狩獵及木材ノ伐出等ノ割業ハ「エカテリノ、ニコリスキー」地方ノ部落ニ於テ相當發達セリ
一九二九年「ビロ、ビッジャン」調査班カ戸別申告ニ基キ調査シタル所ニ據レハ「ハバロフスク」
市附近ノ沿黒龍江各部落「ボタロフカ」、「ウラヂミロフカ」、「サマロ、オルロフカ」、「スバスコ
エ」住民ノ所得ノ主タル源泉ハ漁業收入ニシテ「ハバロフスク」市ニ賣出ス乾牧草及牛乳モ亦農
家ノ所得ノ一部ヲ爲シ居ルコトヲ知ル「イン」驛ニハ主トシテ鐵道關係ノ労働者居住シ「チーホ
ニカヤ」町ノ住民ハ農業、木材ノ伐出及狩獵ヲ業トス「ビラ」驛、「ロンドコ」、「キムカム」及
「ビラカン」等ニ於ケル住民ハ鐵道従業員ヲ除キ伐林地ニ於ケル労働及狩獵ヲ以テ生計ヲ營ミ居
レリ

「コルホ
イズ」

一九三〇年五月ノ調査ニ依レハ「ビロ、ビッジャン」區ニハ總計三六ノ「コルホイズ」アリ（農業
「アルテリ」三〇、「コンムーナ」五、共同耕作組合一）、九三二ノ農戶ト一〇、二一人ノ人
口即チ全區人口ノ三五「バーセント」ヲ網羅セリ「コルホイズ」ノ作付反別ハ一四、四三二「ヘク
ター」ニシテ全作付反別ノ六九「バーセント」ヲ占メ耕作作用馬匹ハ三、一五〇頭ヲ算シテ區内ノ
勞役用馬ノ三七「バーセント」ニ當レリ獨リ乳牛ハ今尙「コルホイズ」ニ糾合セラレタルモノ少
ク合計一、二〇頭ニシテ僅ニ區内全數ノ一六「バーセント」ニ當ルノミナリ

一九三二年一月開個セラレタル「ビロ、ビッジャン」區第一回「ソヴェト」大會ハ同區ヲ以テ全面
的「コレクティヴィゼーション」施行地ト爲サントスル中央當局ノ方針ヲ盛り立テ同年中ニ全農
戶ノ七〇「バーセント」以上ヲ共營化スヘキ旨ノ決議ヲ爲シタルカ同年五月十日ニハ既ニ共營化
ハ六七「バーセント」ヲ舉ケ次イテ七〇「バーセント」ノ豫定ハ完全ニ遂行セラレタル趣ナリ

「ソヴ
イズ」

「ビロ、ビッジャン」區内ニ於ケル「ソヴホイズ」ハ左ノ如シ

(一) 搾乳及蔬菜「ソヴホイズ」

「ボタロフカ」驛附近ニ在リ所有地ハ三、〇〇〇「ヘクター」ナルカ將來一〇、〇〇〇「ヘクター」

ニ擴張スル豫定ナリ一九三〇年五〇頭ノ乳牛ヲ購入シタルカ一九三二年中ニハ之ヲ二、〇〇

〇頭ニ増加セシムル計劃ヲ樹テタリ

(二) 「ビロ、ビッジャン」粒穀「ソヴホイズ」

「セルノトレスト」(粒穀「トラスト」)ノ所管ニ屬シ本區ニ於ケル「ソヴホイズ」中最大ノモノ

ナリ所有地總面積七二・〇〇〇「ヘクター」ヲ算ス

一九三〇年度中約二〇・〇〇〇「ヘクター」ノ地ヲ開墾シタルカ一九三二年度ニ於テハ其ノ六〇「バーセント」即チ二二、〇〇〇「ヘクター」ノ播種ヲ爲シタリ

(三) 米作「ソグホーズ」

「エカテリノ、ニコリスコエ」附近ニ設置セラレ朝鮮人ヲ使用ス所有地八一、五〇〇「ヘクター」ニシテ將來六、〇〇〇「ヘクター」迄擴張ノ筈ナリ米ノ作付段別ハ一九三〇年一〇〇「ヘクター」、一九三一年五〇〇「ヘクター」ナリ

(四) 「アムーロ、ピラ」「ソグホーズ」

「ナデージンスコエ」村附近ニ設置セラレ九五、〇〇〇「ヘクター」ノ土地ト一、〇〇〇頭ノ家畜ヲ所有ス

以上ハ既設ノ「ソグホーズ」ナルカ「ソヴィエト」聯邦農務人民委員部ハ曩ニ派遣シタル調査隊ノ報告ニ基キ「ピロ、ビジャン」地方ニ更ニ左ノ一〇「ソグホーズ」ヲ開設スル計劃ヲ樹テ其中(七)ノ養禽「ソグホーズ」及(九)ノ養豚「ソグホーズ」ヲ除ク他ノ八「ソグホーズ」ハ一九三二年中既ニ事業ヲ開始シタル趣ナルモ詳細不明ナリ

(一) 「イン」粒穀「ソグホーズ」

「イン」驛ノ南方ニ位シ所屬土地四五、〇〇〇「ヘクター」

(二) 「オン、ピラ」粒穀「ソグホーズ」

「オン、ピラ」河ノ河口ニ位シ所屬土地七五、〇〇〇「ヘクター」

(三) 「ダウール」粒穀「ソグホーズ」

「ファウラン」山背ト黒龍江トノ間ニ在シ所屬土地五二、〇〇〇「ヘクター」

(四) 「ルゴゾイ」牧畜「ソグホーズ」

「ピロ、ビジャン」粒穀「ソグホーズ」ノ北方ニ位シ所屬土地一一二、〇〇〇「ヘクター」

(五) 「ヒンガン」養蜂「ソグホーズ」

黒龍江沿岸ノ「ラッデ」村附近ニ位シ所屬土地八五、〇〇〇「ヘクター」

(六) 「カメヌーシユカ」種子採取「ソグホーズ」

「ピロフェルド」附近ニ位シ所屬土地八、〇〇〇「ヘクター」

(七) 養禽「ソグホーズ」

「チーホニカヤ」驛附近ニ位ス三二、〇〇〇個ノ卵ヲ孵化セシムル孵卵設備ヲ爲ス計劃ナリ

- (八) 「ウルミ」粒穀「ソグホーズ」
- 「イン」驛ノ北方ニ位シ所屬土地四五、〇〇〇「ヘクタール」
- (九) 養豚「ソグホーズ」
- 「ゾロチヤーエフカ」驛ノ北方ニ位ス
- (十) 鹿角「ソグホーズ」
- 「クリドゥル」温泉地方ニ位ス

(註) 此ニ鹿角ト謂フハ露西亞語ニテ「マラル」ト稱セラルル一種ノ鹿ノ有スル大ナル一驛ノ角所屬「パンツイ」ナリ
 「パンツイ」ハ軟弱ニシテ未ダ柔皮ヲ被リ居ル中ニ之ヲ切り取りテ輸出ス輸出先ハ主トシテ支那ニシテ支那人ハ醫
 藥ニ強精劑トシテ珍重ス「マラル」鹿ハ主トシテ天山山系一帯ノ山地ニ棲息シ八、九歳ニ達シタルモノノ角ハ
 四、五「キログラム」乃至五、六「キログラム」ニ及フ角ハ毎年生シ價格ハ優等品ニテ「キログラム」ニ付約三〇留
 ナルヲ以テ「ソグホーズ」政府ハ最近「マラル」ノ飼養ヲ殆ト國家ノ專營ト爲シタル状態ナリ

粒穀「ソグホーズ」ニ於テハ今後大豆ヲ以テ主要作物ト爲ス計劃ニテ政府ノ方針ニ依レハ「ビロ、
 ビンジャン」區ノ耕作モ將來ハ大豆ニ重心ヲ置カントスルモノノ如シ(一九三一年粒穀「トラス」
 所管ノ「ソグホーズ」ハ三、〇〇〇「ヘクタール」ノ作付ヲ爲シタリ)大豆及麥類ノ外本地方ニ於
 ケル氣候上ノ條件ハ米作ニモ適スルモ其ノ將來ハ有望ナリト言フヲ得サルハ既說ノ通りナリ粒穀

「ソグホーズ」ハ土地ノ開拓ト共ニ利水、改良事業ヲモ併セ遂行シ着々區内ノ未開墾地ヲ利用ス
 ルコトヲ目的ト爲シ居レリ

牧畜業ハ目下ノ處ニテハ黒龍江沿岸ノ豊饒ナル水邊草地ニ飼料ヲ求メ得ヘキモ將來斯業發展ニ伴
 ヒ牧草ノ栽培ヲモ必要トスルニ至ルヘシ

農業施設
 農業上ノ研究的施設トシテハ「ビラ」農事試驗場アリ「チーホニカヤ」驛ヲ去ル六〇「キロメー
 トル」ノ地ニ位ス一九三二年以來之ヲ改造シテ各地帯別ノ作物ヲ試作セシメ利水改良事業方面ニ
 於テモ活動セシムルコトセリ尙一九三〇年秋「ビロ、ビンジャン」粒穀「ソグホーズ」内ニ農工
 實業學校開設セラレ農業經濟ノ指導者技術員ノ養成ヲ開始セリ

第二款 林 業

面積
 「ビロ、ビンジャン」區ニ於ケル森林面積ハ合計一、二五四、四三〇「ヘクタール」即チ全面積ノ約三
 分ノ一(三四・七「パーセント」)ニシテ其ノ中主トシテ「シニター」(西洋杉)ノ繁茂スル地ニ
 四・三「パーセント」、落葉松繁茂地二〇・三「パーセント」、樺及「ピフタ」同二八・五「パーセン
 ト」、白樺同二八・九「パーセント」、樺一六・一「パーセント」其ノ他ノ潤葉樹同二・九「パーセン
 ト」ニシテ殘餘ノ地ハ雜木林ナリ

本區ノ森林ハ「クウル、ウルミ」管林區（「イン」驛竝ニ「ウルミ」河、其ノ支流及「ピラ」河ノ支流タル「オクラ」、「トレタ」、「サグドイ、ピラ」各河沿域一帯ノ森林）、「ブレイノ、ピラ」管林區（「オプルーチエ」驛竝ニ「ウスリー」鐵道「オプルーチエ」驛及「トレク」待避驛間南北西側ニ互ル「ピラ」、「ビュジャン」、「ボムペーエフカ」、「デイチュートン」、「サマラ」、「ドーンラヤ」各河沿域ノ森林）及「アルハラ」管林區ノ三ヲ形成ス「クウル、ウルミ」林區産ノ木材ハ「極東林業「トラスト」（「ダリレス」）ノ取扱ニ係リ「ブレイノ、ピラ」林區産ノ木材ハ「ウスリー」鐵道ニ於テ之カ處理ニ當リ居レリ

各林區ノ面積ヲ樹種別ニ示セハ左ノ如シ

林 區 名	面 積 (ヘクタール)		
	「シエダー」 落葉松 樅及「ピフタ」	白 樺	榲 栲 其ノ他 落葉樹
「アルハラ」管林區	三三三	一九六三	九八七
(一)「ボンカン」林區	一八五七	二一七六	一七三
(二)「スタール」林區	三三〇〇	一〇〇〇	一七三
(三)「ビュジャン」林區	三三〇〇	一八五七	一七三
(四)「ボムペーエフカ」林區	七一三	一八六六	一〇〇〇

四六

樹 種	合 計		
	面 積 (ヘクタール)	百 分 比	備 考
(一)「ピラ」管林區	一七九〇	一四・三	
(二)「クウル」管林區	一七九〇	一四・三	
(三)「アルハラ」管林區	一七九〇	一四・三	
(四)「ボンカン」管林區	一七九〇	一四・三	
(五)「スタール」管林區	一七九〇	一四・三	
(六)「ビュジャン」管林區	一七九〇	一四・三	
(七)「ボムペーエフカ」管林區	一七九〇	一四・三	
小 計	一七九〇	一四・三	
大 計	一七九〇	一四・三	

(註) 本區ノ森林ハ概シテ一樹種ノミ繁茂スルモノ少キナリ以テ本表ニ掲グル面積モ亦當該林區ニ於ケル主成樹種ニ關スルモノナリ

本區ノ森林ハ恰モ滿洲、「ダウル」及「オホーツク、カムチャッカ」ノ三植物帯ノ境界ニ位スルモノニシテ樹種ノ豐富ナルモ亦之ニ歸因ス即チ朝鮮「シエダー」、「ヤーセン」、樺等滿洲植物帯ノ代表的樹木ト共ニ落葉松、白樺等「ダウル」帶樹木竝ニ薄色「ピフタ」及「アヤンスカヤ」樅等ノ「オホーツク、カムチャッカ」帶ノ樹木雜生シ居レリ依テ各林區ニ於テハ伐採上材種ヲ揃フルコ

四七

ト困難ナルノ不便アリ尙本區ノ森林ニハ從來屢火起リ之カ爲森林ノ受クル損害夥シク現今尙此ノ災厄ニ因リ年々多量ノ木材ヲ島有ニ歸セシメツツアリ頻繁ナル林火ニ依ル當然ノ結果トシテ森林中ニハ「ガリー」(森林ノ燒跡ニ生スル小木ノ疎林)ニ依リテ占メラルル「パーセントー」相當大ニシテ且一般ニ森林ハ密生林少ク材質モ亦不良ナリ伐採ノ實情ヲ見ルニ主トシテ「シエダー」及落葉松ノ二種ニ限ラレ「シエダー」ハ之ヲ輸出ニ振當テ落葉松ハ鐵道用材トシテ使用セラレ居レリ其ノ他ノ樹木ハ目下ノ所ニテハ殆ト利用セラレ居ラス

材種 本區ノ森林ニハ密生林少キ關係上材種モ比較的小ナルカ各樹種ニ關スル「ヘクター」當リノ材積ヲ示セハ概略左ノ如シ

「シエダー」	四四〇乃至五三〇 ^{キログラム}
落葉松	一八〇乃至四三〇
樅、 白樺	三〇〇乃至三三〇
樅、 黑樺(混成)	一五〇乃至一六〇
樺、 菩提樹(混成)	七〇乃至一〇〇
	一〇〇乃至一一〇

木材ノ搬出経路

木材搬出ノ主要経路ヲ示スニ

(一)「ウルミ」河沿域ヨリ出ツルモノ

主トシテ「ターカン」地方ニ於テ伐採セラルルモノニシテ「ウルミ」河、「ツングース」河ヲ經テ黑龍江河口ノ「ニコラエフスク」市迄筏流シ同市ノ製材工場ニ於テ製材セララル

(二)「ピラ」河及其ノ支流ヨリ出ツルモノ

「スタール」、「ピラカン」、「クリドゥル」、「キムカン」、「カメヌーシユカ」、「サグド、ピラ」及「ピラ」河ノ其ノ他ノ支流ニ依リテ筏流セラレ「ピラ」河ニ出テ茲ニテ鐵道ニ積替輸送セラ

(三)「ビッジャン」水系沿域ヨリ出ツルモノ

「デイトゥル」、「ニヤール」、「ビッジャン」等ノ沿線ヨリ出テ「ビッジャン」ヲ經テ黑龍江ニ出テ「ハバロフスク」市迄筏流セララル

(四)「ゴムペーエフカ」、「サマラ」、「デイチン」各河沿域ヨリ出ツルモノ

何レモ黑龍江ニ出テ下航シテ「ハバロフスク」市迄筏流セララル

一九二八—一九二九年度中ニ於テ林業機關ニ於テ伐採シタル木材ノ量ハ「シエダー」一三三、〇〇〇立

伐採中

方米、落葉松四〇、〇〇〇立方米ナリ同年中木材ノ伐出ニ就業シタル労働者ハ平均運搬夫一、三三八名權夫一、四七一名役師七四八名ニシテ使用馬匹ハ一、三六三頭ヲ算セリ伐採期ハ例年十二月中旬ヨリ翌年三月初日ニ至ル七〇日乃至七五日間ナリ

斯クノ如ク「ビロ、ビッジャン」區ニ於ケル森林ハ必スシモ美林ト稱スルコトヲ得ス又樹種ハ多キモ一樹種ノミノ大森林少キヲ以テ伐木經濟上不利ノ點少シトセス只今後地方人口ノ増加ト共ニ伐林方法宜シキヲ得正則ナル經營ヲ續クルニ於テハ相當大規模ノ林業化學工業及木材加工業ヲ勃興セシムルニ足ルヘキ充分ノ素地ヲ有スルモノト認メラル

第三款 漁業

魚族

「ビロ、ビッジャン」區内ノ水域ニ棲息スル魚類ハ鮭族ニ在リテハ鮭其ノ他ノ魚類ニ在リテハ「シチューカ」、鮎、鯉等ヲ主トス鮭ハ例年九月中ニ漁獲アリ即チ黒龍江河口ヨリ産卵ノ爲同江ヲ溯リテ來集スルヲ待チテ之ヲ捕獲ス然レ共較近漸ク産獲ノ弊ヲ生シ年々黒龍江ヲ上ル鮭ノ數減退スルノ兆顯著トナリタルヲ以テ政府ハ鮭保護ノ目的ヲ以テ黒龍江一帯ノ各地ニ産卵場ヲ指定シ禁漁地ト爲セリ右ノ中本區ニ於テハ「ビラ」、「ビッジャン」及「ツングースカ」ノ三水系ヲ鮭ノ産卵地ト指定シタルヲ以テ右各水系ニ於ケル鮭ノ漁獲ハ家族一人ニ付年一〇尾以内ニ制限セラレタ

リ然モ尙鮭ノ本地方ニ至ルモノ年々減少シツツアリト云フ

「ロンドコ」驛附近ニ鮭ノ人工孵化場設置セラレ年四百萬ノ鮭ノ仔魚ヲ養成シツツアリ
鮭族以外ノ魚族ハ主トシテ「ハバロフスク」市附近ノ黒龍江一帯ノ村落ニ於テ漁獲セラレ「ボクロフカ」、「ウラデミロフカ」、「ニジニニ、スバツスコエ」、「サベロフスコエ」ノ各村之ナリ是等ノ魚族ハ黒龍江及「ツングースカ」河ニ於テハ頗ル豊富ナルモ現在尙漁獲高少シ漁業ヲ生業トスル者ハ合計僅ニ一五五名ニシテ是等ノ漁夫ハ相集リテ六個ノ漁夫組合（「アルテリ」）ヲ組織シ居レリ

「ザエズドク」（特殊ノ漁獲設備ニシテ河水又ハ湖沼ニ設ケ魚族ヲ自然ニ誘導捕獲スルモノ）「ボクロフスコエ」、「ウラノフスコエ」ノ兩湖竝ニ「アルハンゴロフカ」村附近ノ三個所ニ設置セラレ
「ハバロフスク」市附近ノ村落ニ於テ漁獲セラレタル魚類ハ通常生魚ノ儘同市ニ運ヒテ賣却セラレ他地方ノ村落ニ於ケル漁獲物ハ専ラ地方住民ノ自家消費ニ充テラレ他地へ搬出セラレルコトナシ

第四款 狩獵業

歌類

以前ニハ黒貂、類等高價ナル毛皮獸ノ獵獲アリタレ共濫獲ノ結果殆ト死滅シ現在狩獵ノ目的タル獸類トシテハ栗鼠、「コロノク」、「イシューブリ」、「熊」、「コスーリヤ」等ヲ擧クルコトヲ得獵獲セラルル毛皮獸ノ四分ノ三迄ハ栗鼠ノ占ムル所ニシテ山間ノ地方ニ於テハ全戸數ノ八〇「パーセント」カ專業又ハ副業トシテ狩獵ニ従事シツツアリ

五二

就中最モ收益多キハ栗鼠ノ捕獲ニシテ獵期ノ開始ト共ニ住民等ハ何レモ他ノ一切ノ業務ヲ抛テ二三ヶ月間ヲ通シ密林ニ入りテ獵獲ニ専心スルヲ常トス一日一人當ノ獲物ハ四、五匹見當ニシテ中ニハ克ク一〇匹ヲ獲ルモノアリ獵期中ノ獲物ハ通常二〇〇匹乃至三〇〇匹ナルヲ以テ一匹ニ付一留五〇哥ノ買上價格トシテ換算セハ三〇〇留乃至四五〇留ニモ達スヘシサレト栗鼠獵ハ例年好況ナルニ非スシテ「シニダー」實ノ收穫良キ年ニ限ルモノトセラル從而「シニダー」實ノ作柄惡シキ年ハ栗鼠ノ來集スルモノ殆トナク通常四年目毎ニ反復セラルル豐作年ニ限り多數ノ獵獲アルノミナリ
獵獲物ノ買付ハ主トシテ「ゴストルグ」ニ依リテ行ハレ「オホトソユーズ」(狩獵業者組合)之ニ次ク

獵獲高

獵獲高ニ關シテハ確實ナル統計ナキモ毛皮類ハ専ラ「ゴストルグ」(チーホニカヤ)驛及「エカ

テリノ、ニコリスコエ」村ノ二個所ニ專營ノ店舗ヲ有ス)及「オホトソユーズ」(狩獵業者組合)聯合ニ於テ必要物資ト交換ノ形式ヲ以テ買上ケラレ居ル事情ニ鑑ミ參考迄ニ右買上高ヲ示セハ左ノ如シ

「ゴストルグ」

一九四、八〇〇

「オホトソユーズ」

一五〇、〇〇〇

野禽ニハ鴨、雁、山鳥、雞、鶉等アリ

第五款 鐵 産

金

「ピロ、ビッジャン」區ニ於テ今日迄ニ發見セラレタル礦物ハ鐵、金、石炭、石墨等ナリ

由來黒龍江ノ支流中ニハ砂金ヲ産スルモノ多ク本區内ニ於テモ「スタール」川ハ舊時ヨリ其ノ名ヲ知ラレ七〇箇所以上ノ砂金採取地開カレ多數ノ労働者入込ミタルコトアリ現在ニテハ「ソユーズゾロト」(採金業「トラス」)ノ手ニ依リ事業進展シ水洗機械等ヲ利用シ居レルモ産額ハ著シカラサル趣ナリ

鐵

鐵産地ハ小興安嶺南方ノ「ソユーズユイ」村ト「ボムベエフカ」村ノ間ニ介在ス埋藏量ハ地質學者「ボレゾイ」氏ノ測定スル所ニ據レハ合計四、九〇〇、〇〇〇噸ニシテ鑛石モ五五「パーセント

五三

ト乃至七〇「パーセント」ノ鐵ヲ含有スル良質ノモノナリト北方ノ産地ハ「ビッジャン」河ノ上流地方ニ位シ鐵質ハ含有鐵分五〇「パーセント」程度ノモノト稱セラル一般ニ小興安嶺方面ノ鐵産地ハ極東露領中最モ豊饒ナルモノト見ラレ將來ノ開拓ニ伴ヒ有望視セラレ居レリ

石墨

石墨ノ産地ハ「ビラ」河畔「ソユーズヌイ」村ノ上流八「キロメートル」ノ所ニ在リ分析ノ結果良質ノ石墨三〇「パーセント」ヲ含有スルコト明トナレリ埋藏推定量ハ六、六〇〇、〇〇〇噸ニシテ充分開發ノ價値アリトセラル其ノ他「カメヌーシユカ」「サマラ」兩河ノ沿岸及「タラスヌイ」、ヤル」村附近ノ地ニモ石墨ノ産地アルモ右兩産地ハ今尙踏査セラレタルコトナク詳細不明ナリ

石灰石

石灰石ハ黒龍江岸ノ「ソユーズヌイ」村附近、「ビッジャン」河ノ上流、「ドブリンスキ」山脈及「ロンドコ」「キムカン」兩驛間ノ「ウスリー」鐵道沿線ノ地ニ發見セラレタルモノアリ又「ビラカン」驛及「クリドゥル」温泉地附近ニハ方解石ノ産地アルコト發見セラレタリ尙石灰中ニハ石綿ヲ混スルモノ多キモ現在ノ所ニテハ其ノ質及埋藏量共ニ不明ナリ

第六款 工業

モ「ウスリー」鐵道ノ消費ニ充テラル一九三一年中「ビラカン」驛ニ製造能力年三〇〇〇噸ヲ有スル石灰工場ノ建設計劃アリ五年計劃ハ又本地方ニ於ケル石灰石ヲ利用シテ「セメント」工業ヲ興サントシ「ビラカン」驛附近ニ工場ノ建設ヲ豫定セリ

第六款 工業

「ビロ、ビッジャン」區内ニ於テハ尙工業ノ見ルヘキモノナク僅ニ木材工業及手工業ノ二ヲ舉グルコトヲ得ヘシ木材工業ハ本地方ノ森林豊富ナルニ鑑ミ相當將來ヲ囑望セラル

木材工業

「ニコラーエフ」村ニハ「ダリレス」(極東林業「トラスト」)ノ製材工場アリ年三〇、〇〇〇本ノ丸木ヲ製出ス一九三一年中ニハ之ヲ擴張シテ製材能力ヲ倍加セシメ且木材加工工場ヲ開設スルコトヲ計劃セリ

一九三〇年「ピラカン」驛ニ木「タール」乾溜工場設置セラレタルカ本地方ニ於テハ原料頗ル豊
富ナル實狀ニ鑑ミ斯業ノ將來ハ相當有望視セラレ居レリ

手工業

家内工業者ニシテ産業組合ニ依リ合同セラレタル者ハ一九三〇年十月現在ニ於テ合計三六四名ナ
ルカ其ノ中二〇〇名ハ石灰製造業者同業組合員ナリ猶太人ノ手工業者ハ合計一五一名ヲ算ス、一
九三一年中ニハ石灰製造業者同業組合ヲ擴張シテ組合員ヲ四〇〇名ニ達セシムルト共ニ煉瓦製造
工場三（「コオペラチツ」經營ニシテ煉瓦ノ年製造高三、〇〇〇、〇〇〇個）及瓦製造工場一（年製
造高一、五〇〇、〇〇〇枚）ヲ新設スヘク事業計劃ヲ樹テタリ

第六節 商 業

物資ノ配

住民ニ對スル物資ノ配給ハ消費組合ニ依リ行ハレツツアリ鐵道沿線ノ地ニ於テハ「ウスリー」鐵
道運輸労働者消費組合（「ウステベオ」）ハ同鐵道従業員及其ノ家族ニ對スル物資ノ配給ニ任ジ
「ゴストルグ」ノ專營店舗モ亦住民ノ提供スル毛皮ト交換ニ相當多量ノ物資ヲ放出シ居レリ右ノ外
尙「オゼット」ハ新移民地方ニ「コオペラチツ」開設セララルルニ至ル迄特ニ移民ニ對スル物資ノ
配給ニ當リタルコトアリ
區内ニ於ケル「コオペラチツ」店舗ハ合計三四ナルカ一九二八—二九年度中ニ於ケル其ノ取引高

ハ四、三〇〇、〇〇〇留ニシテ内一、九〇〇、〇〇〇留ハ「ウステベオ」ノ取扱ニ係ルモノナリ
「ゴストルグ」ノ專營店舗ハ二箇所ニ設ケラルルハ「チーホニカヤ」驛ニ在リテ取引高年額一九四、
八〇〇留ヲ示シ他ハ「エカテリノ、ニコリスコエ」村ニ在リテ取引高年額一五〇、〇〇〇留ヲ算
ス

毛皮ノ買付ハ「オホトソユーズ」（狩獵業者組合聯合）ニ於テモ亦之ヲ行ヒ居レルカ「オホトソユ
ーズ」ノ取引高ハ年一五〇、〇〇〇留見當ナリ

金融

金融機關トシテハ専ラ信用組合及郵便官署ニ於ケル貯蓄預金ノ取扱等ニ依リ少額ノ預金及貸出行
ハルル程度ニ過キササル處極東地方執行委員會ハ一九三二年五月二十七日附ヲ以テ「ベテロバウロ
フスク」（勸察加）、「アレクサンドロフスク」（北樺太）、「シュコトゾ」（沿海州）ノ諸地ニ極東
銀行支店ヲ開クト共ニ「チーホニカヤ」ニモ同銀行支店ヲ開設スヘキ旨決定スル所アリタリ

第二章 露領亞細亞ニ於ケル猶太人ノ歴史

西比利地方ニ於ケル猶太人ノ歴史ハ第十七世紀ノ前半ニ始ル即チ一六三五年「耕作」及「勤務」ノ爲西比利地於ヘ派遣セラレタル者ノ召喚ニ關スル勅令中ニ「リスアニア」人、獨逸人及「ジード」(猶太人ノ舊稱其ノ後侮稱トナレリ)ナル語ヲ見受ク右ノ勅令中ニハ軍指揮官ニ對スル訓令トシテ猶太人ニシテ洗受改宗シ且露西亞婦人ト結婚シタル者ニ對スル取扱振竝ニ改宗シタルモ露西亞婦人ト結婚セザリシ者ニ對スル取扱振等詳細ナル規定ヲ爲シ居ル點ヨリ見ルニ當時捕虜トシテ西比利各地ニ於テ勞役ニ服シ居タル猶太人ハ相當多數ニ上リタルコトヲ窺ヒ得ヘシ又一六五九年中莫斯科ノ「ノヴォ、ネメツカヤ」區ニ居住シタル猶太人ヲ西比利ニ流シタル文献アリ一七九四年猶太人居住地指定ノ制度實施セラレ西比利地方ハ其ノ指定地ニ含マレサルコトナリタルヲ以テ其ノ後「ウラル」ヲ越ヘテ東ニ赴ク猶太人ハ専ラ罪人トシテ徒刑ニ處セラレタル者ニ限ラレタリ西比利地方ニ流サレタル猶太人ハ主トシテ「イルクーツク」縣、「ヤクーツク」州及後貝加爾州ニ土着セリ斯クシテ第十九世紀初葉以來西部西比利地方ニハ間々猶太人ノ小部落見受ケラレタルカ「カイン」村竝ニ「オムスク」、「トムスク」、「カンスク」等ノ各地ニ於ケル猶太部落即チ之ナリ

一八三六年時ノ政府ハ邊陲地ノ開發策ヲ樹テ南方「スタップ」地帯ニ植民セシメントシテ猶太人ヲ
西比利ニ送ルコトトセリ猶太移民ノ爲政府ハ西部西比利地方五箇所ニ合計一五、一五四「デシヤチ
ーナ」(「デシヤチーナ」ハ吾一町一段四畝八歩)ノ土地ヲ準備セリ尙又移民ニハ國庫ニ於テ農具、
耕作用牛馬、家財等ヲ支給スヘキコトヲ定メタルヲ以テ猶太人中移住ニ應スル者豫想以上ニ多數
ヲ算シタリ依テ大藏大臣ハ更ニ「オムスタ」州内ニ十箇所合計一三、三六三「デシヤチーナ」ノ官
有地ヲ拂下ケテ猶太移民ノ用地ニ充當セントシタルカ「ニコライ」一世ハ之ヲ裁可セサルノミカ
俄ニ猶太人ノ移民ヲ中止スヘキコトヲ命シタリ其ノ結果移住中止命令ノ公布前ニ西比利へ到着シ
タル者ノミヲ殘シ旅途ニ在ル者ハ之ヲ黑海北岸ノ「ヘルソン」縣へ移スコトナレリ斯クシテ西
部西比利ニ殘リタル猶太人ハ合計一、三六七名ニシテ爾後西比利各地ニ散在シタル猶太人ハ實ニ
一八三六年移民ノ末裔ナリ

六〇

一八三七年猶太人ニ關スル特殊ノ法令發布セラレタルカ之ニ依レハ猶太人ノ西比利移住ハ爾後絶
體ニ禁セラレ且既ニ西比利ニ移住シタル猶太人ノ數ハ成ル可ク之ヲ減少セシムルコトナレリ其
ノ規定中最モ特色アル點ハ四十歳以下ノ猶太人ニシテ裁判所ノ判決ニ依リ西比利亞地方へ流刑ニ
處セラレヘキ者ニ對シテハ他ノ刑罰ヲ以テ之ニ代ヘ四十歳以上ノ者ニ對シテノミ流刑ヲ課スルコ
トヲ得ルモノトシ然モ右ノ場合ニ於テモ當時西比利各地中最モ僻遠ノ地ト見ラレタル「イルター
ツク」縣及後貝加爾州ニ限リ居住セシムルコトシタル所ナリ右法令ハ又西比利ニ於ケル猶太人
人口ヲ減少セシムルコトヲ目的トシテ流刑囚ノ子弟男子ナルトキハ之ヲ「カントニスト」(子供ノ
時ニ既ニ兵籍ニ編入セララルル強制兵役制度ニ依リ募兵セラレタル者)トシテ登録セシメ移民ノ子
弟ハ十六才ニ達スルト共ニ之亦「カントニスト」タラシメタリ併シテ父母之ヲ背セサルトキハ之
ヲ立退カシメ居住指定地(歐露十五縣)ニ引戻スヘキコトヲ定メタリ

斯クノ如ク猶太人ノ西比利地方へノ移住ハ甚タ制限セラレ猶太人ノ發展ハ其ノ他ノ法令ニ依リ著
シク壓迫ヲ受ケタルニモ拘ラス或ハ窃ニ指定地ヲ脱シテ西比利ニ至ル者或ハ政治犯トシテ流刑ニ
處セラレタル者等ニ因リ續々ト増加ノ傾向ヲ示シ第十九世紀末ニ於テハ既ニ總數三四、四七七名
ヲ算シ西比利全人口ノ〇、六「パーセント」ニ當レリ然モ猶太人ノ比較的大ナル密集地各地ニ生
スルニ至リタルカ「イルターツク」縣ノ八、二九九名、「トムスタ」縣ノ七、六九六名、後貝加爾
州ノ七、五五〇名最モ著シク其ノ後歐洲大戰勃發ニ至ル迄西比利ニ於ケル猶太人數ハ政治囚ノ増加
ニ伴ヒ益増加セリ

六一

西比利地方ニ於ケル猶太人ノ經濟的活動ハ移住當初ヨリ「ツヴェイト」政權ノ確立ニ至ル迄專ラ
 商工業ヲ生業トセリ地方西比利ノ各都市モ亦新開地ノ都市ノ例ニ漏レス、商工業勃興ノ氣運旺ナ
 リシヲ以テ農村ニ移住シタル猶太人モ雖テ都市ニ引入レラレテ由來猶太人ノ得意トスル商業又ハ
 手工業ニ轉業スルニ至レリ猶太人ノ活動目立ツテ著シキハ大、中ノ商事經營ニシテ就中砂金採取
 地ニ對スル食料品及其他ノ商品賣込、農産物ノ賣買並ニ蒙古ニ於ケル家畜ノ買付等ニ於テ其ノ
 活動目醒シキモノアリ小規模ノ工業及手工業ノ發達ニ付テモ亦猶太人ハ相當重要ナル役割ヲ演シ
 尙又所謂自由職業即チ醫師、法律家等トシテモ盛ニ活動セリ一八七〇年頃ヨリ猶太人ハ西比利各
 地ノ金鑛業殊ニ貝加爾湖以東即チ「バルグ、ジンスク」、「ネルチンスク」、「チタ」ノ諸管區ニ於ケ
 ル金鑛業ニモ手ヲ伸スニ至レリ

一八九七年ノ人口調査ニ依レハ西比利地方ニ於ケル猶太人ノ職業別統計左ノ如シ

商	業	三、七九二
工	業	二、八一〇
農	業	八二五
交通運輸及移動職業		五八五

下婢及日傭勞動者	五〇七
官公吏及自由職業	三三二
不生産的職業及職業不定ノ者	七二三
軍	四四六

其ノ後二十年間ニ於ケル猶太人ノ職業別人口ハ大體ニ於テ變化ヲ認メサルモ其ノ社會的地位別ニ
 ハ相當ノ移動アリ殊ニ商、工業ニ於テ其ノ傾向甚タシク徒刑囚及流刑移民中ヨリ商工業従業員及
 勞働者ニ投シタル者多シ

第十九世紀末露西亞ニ於ケル猶太住民ノ間ニ生シタル各種ノ社會運動中西比利地方ニ於テ最モ大
 ナル反響ヲ克チ得タルモノハ反勸的團體「シオニズム」ニシテ「シオン」團體ハ殆ト西比利各都
 ニ組織セララルニ至レリ一九〇五年ノ騷擾ニ乘シ「シオン」團體ハ勿ニ西比利地方大會ヲ開催シ
 西比利ノ實情ニ則シタル運動方法及戰略ヲ定メタリ斯クテ「シオン」團體ハ西比利ニ於ケル猶太
 人ノ唯一ノ結社トシテ迅速ニ發達シ猶太住民ヲ固ク糾合シ一九一七年ノ革命ニ至ル迄猶太人間ニ
 極テ大ナル勢力ヲ維持シ來レリ尙又歐露各地ヨリ追放セラレ西比利地方ニ定住シタル猶太人勞働
 者及學生等ノ小團體モ亦各地ノ革命運動ニ參加シ露西亞社會民主勞働黨及社會革命黨ニ於テ重要

ナル地位ヲ占メタリ

西比利ニ於ケル猶太人ノ社會運動特ニ熾烈トナリタルハ歐洲大戰開始以來ノコトニシテ一九一五
一六年中數千ノ猶太避難民及被追放者西比利ニ來住セリ之等ノ猶太人ハ一九一四年末戰線附
近ノ諸縣(「ゴヴェンスカヤ」、「クッルリヤンドスカヤ」、「グロドネンスカヤ」、「スツワルクスカ
ヤ」)ヨリ敵國ノ人民トシテ立退ヲ命セラレ又ハ戰禍ヲ避ケテ移住シタルニ〇〇、〇〇〇人ノ避難
民ニ混シタルモノニシテ労働者及手工業者ヲ主トセリ舊居住指定區域ヨリノ被追放者及西比利各
地ニ移住シタル猶太人カ陸續トシテ都市ニ集中シタルモ亦此ノ時代ニシテ労働者、従業員及手工
業者大部分ヲ占メタリ之等猶太人團體ハ主トシテ宗教ヲ背景トスル運動ニ従事シタルカ二月革命
後愈々専ラ政治的活動ヲ開始スルニ至レリ

「ソヴェト」政權ノ確立以來露國共產黨委員會猶太人部ハ猶太労働者間ニ活動ヲ開始シ殊ニ政治
教育方面ニカラ注キ「イルクーツク」、「トムスク」、「オムスク」ノ各市ニ労働者俱樂部、學校、
圖書館ヲ開設シ集會、講演會、討論會等ヲ開催シテ一般ノ猶太人ヲ政治的ニ啓發スル所アリタリ
國內ノ事亂鎮靜シテ以來猶太避難民及被追放者等ハ續々引擧クルニ至リタルヲ以テ之等諸種ノ特
殊施設ハ漸次撤廢セラレ西比利地方ノ猶太住民ハ一般ノ施設ノ取扱ニ委セララルコトナレリ只

最近ニ至リ前記「オゼット」、「コムゼット」等ノ特殊機關設置セラレ猶太人ノ植民ニ資シツツアリ
一九二六年ノ人口調査ニ據レハ西比利地方(廣ク「ウラル」以東ノ露領亞細亞ヲ指スモノニ非ス
一九二六年當時ノ行政區劃上ノ名稱ニシテ即チ貝加爾湖以東ヲ以テ形成セラレタル極東地方ヲ除
ク)ニ於テハ三二、七五〇名ノ猶太人ヲ算シタルカ其ノ内市部ノ人口二八、九七二名、村部三、七
七八名ナリ

西比利地方ニ於ケル猶太人人口ノ約八〇「パーセント」ハ左記六管區(舊行政區劃ニシテ一九三
〇年中廢止セラレタリ)ニ集中セリ

- 「イルクーツク」 九、〇八三
- 「トムスク」 五、五〇五
- 「オムスク」 四、三八九
- 「クラスノヤルスク」 三、〇四〇
- 「ノヴォシビルスク」 二、三〇一
- 「バラビンスク」 二、二二七

其ノ他ノ管區ニハ何レモ少數(「アチンスク」一、七四〇名、「カンスク」一、一九七名、「トウル

「ピロ、ピッサン」ニシテ極東地方ニ於テハ殊ニ少数ヲ示セリ
 近年各地ニ於テハ「プロレタリア」化セル猶太人ノ生産的業務ヘノ誘入政策ノ遂行ニ伴レ其ノ農
 民化ヲ奨励シ各地方ニ於テ移民用地ヲ設定シ「ホルホーゾ」ヲ形成セシメツツアリ「ピロ、ピッ
 シャン」ハ即チ其ノ最モ著シキモノナリ

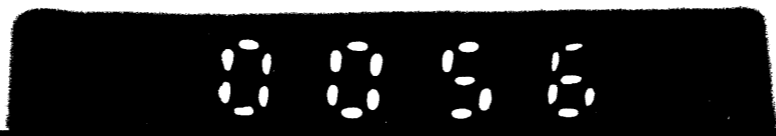
第三章 「ピロ、ピッサン」區ノ植民

第一節 「ピロ、ピッサン」區ヲ移民地トシテ選定ノ経緯

「ソヴエト」聯邦ニ於ケル猶太人ノ農業化ヲ計ルコトヲ目的トシテ一九二四年八月二十九日勤
 勞的猶太人土地整備委員會（略稱「コムゼット」組成セラレ（「コムゼット」ニ關シテハ別項参照）
 爾來同委員會ハ今日迄ニ猶太人一萬二千五百九家族ヲ歐露各地ニ植民シタルカ之ヲ地方別ニ示セ

「ウクライナ」	七、八九六
「クリミア」	二、三二二
白 露 西 亞	一、五〇二
露 南 亞	六五六
「ウズベクスタン」	一、四三三
計	二、五〇九

ニシテ歐露地方ニ於テハ既ニ猶太人ノ植民地トシテ選定スヘキ適當ノ餘地存セス仍テ「コムゼッ
 六七



ト」ハ新ニ調査隊ヲ組織シ之ヲ「アルタイ」、西比利、「チンクム」、「アゾフ」海方面及極東ノ「ピロ、ビッジャン」地方へ派遣シ夫々調査セシメタリ右「コムゼット」調査隊ノ調査資料ハ「ブルック」教授者「極東露領」「ピルスコ、ビッジャン」地方「ナル」書ニ纏メラレ一九二八年莫斯科ニ於テ刊行セラレタルカ右「ピルスコ、ビッジャン」地方ニ關スル調査資料ニ依リ同地方ハ植民開發上勿論種々ノ困難ナル事情アレ共麥、豆、米、麻、馬鈴薯、煙草等農産物ノ栽培ニ適スルコト及人口少クシテ移民ノ収容力アルコト確實トナリタリ茲ニ於テ「コムゼット」及全聯邦植民委員會ハ右ノ調査資料ニ基キ「ソヴェエト」聯邦中央執行委員會ニ對シ猶太人ノ「ピロ、ビッジャン」地方移植ニ關スル建議ヲ爲シタリ中央執行委員會ハ審議ノ結果一九二八年三月二十八日附決定ヲ以テ「ピロ、ビッジャン」地方ヲ「コムゼット」ノ計畫ニ依ル勤勞的猶太人等ノ移植地トシテ指定セリ（一九二八年三月一日—二八日中央執行委員會議事録集第四五號）植民地域ノ區劃決定ハ中央執行委員會決議第四條ニ基キ「ピロ、ビッジャン」地方ヲ管轄スル極東地方農務廳、極東地方移民局及「コムゼット」ニ夫々委任セラレ右各機關ニ於テ提出スル一切ノ問題ハ極東地方執行委員會ノ審議ヲ經テ全聯邦植民委員會へ移牒セラレ更ニ露西亞共和國農務人民委員部ニ於テ最終的ニ決定セラレヘキコトヲ定メタリ

尙「ピロ、ビッジャン」地方ハ在來ノ土着民及一九二八年以前ニ植民シタル者ニ屬スル土地ヲ除キ總テ「コムゼット」ノ計畫ニ從ヒテ猶太人ニ提供セラルコトナリ同年以降「コムゼット」ノ計劃ニ屬セサル限リ同地方ニ對スル一般ノ植民ヲ許ササルコトナレリ

第二節 「ソヴェエト」聯邦ニ於ケル猶太人植民機關及團體

「ソヴェエト」聯邦ニ於ケル猶太人植民機關トシテハ「コムゼット」アリ民間團體トシテハ「オゼツト」及「オルト」アリ

「Н. Я. П. Д.」 Комитет по Земельному Устройству Еврейских Эмигрантов

「Н. Я. П. Д.」ノ略稱ニシテ一九二四年八月二十九日猶太人ノ植民ヲ計ルコトヲ目的トシテ全露整備委員會（ノ略稱ニシテ一九二四年八月二十九日猶太人ノ植民ヲ計ルコトヲ目的トシテ全露中央執行委員會民族會議幹部會ノ附屬機關トシテ創設セラレタルモノナリ同委員會設置ノ経緯ハ第一章第一節ニ概説シタル所ナルカ左ニ今少シク詳述スヘシ

帝政露國ニ在リテハ國內猶太民族ニ對スル壓制辛辣ヲ極メ猶太人ノ居住地モ波蘭、沿波爾的諸縣、「ウクライナ」、白露、「ベッサラビヤ」等諸地ニ制限セラレ猶太人ノ大部分ハ一般國民經濟ヨリ孤立スルノ止ムナキ状態ニ在リシコトハ既説ノ通ナルカ革命後「ソヴェエト」政權ノ基礎

「コムゼット」ノ経緯

定リタル後ニ在リテモ猶太人ノ一般國民經濟ニ對スル關係ハ尙舊形ノナルモノアリテ勞農階下ノ國家生活實狀ニ則セザルモノ少ナカラス之ヲ例センニ革命後「ソヴェト」ノ工業並ニ商業ハ社會主義ニ向テ着々發達ノ過程ニ在ルニ拘ラス猶太人ノミハ舊套ヲ脱却スルニ至ラス小規模ノ家内工業又ハ小店舖ノ經營ニ罷礙シ進テ國家的經濟關係ニ立入ラントスル者ナキノミナラス社會主義的經濟實現ノ度ニ應シテ愈々失業者續出シ一大社會問題ヲ惹起スルニ至レリ仍テ之カ救済策ヲ講スルノ要ナル處「ソヴェト」工業界ノ現狀ヲ以テシテハ是等猶太人失業
者ノ根本的救済ヲ爲シ得ヘキ見込ナク多數猶太人勤勞者ニ對スル救済上百年ノ計ヲ樹テントセ
ハ勢ヒ之ヲ最善ノ指導ニ依リ農民化セシムルノ外ナキヲ以テ本土土地整備委員ヲ特設シ猶太人救
済問題ノ實際的解決ニ努メシムルコトナレリ

「コムゼット」ハ聯邦各地ニ其ノ支部ヲ設置シ猶太人植民事業ノ統制及監督ニ努メ來ルカ「ソ
ヴェト」當局ノ指揮ト在外猶太人團體ノ應援トニ依リ創設以來今日迄八年ニ亘リ「ウクライ
ナ」「クリミア」方面ニ於ケル猶太人ノ植民ニ活躍シ別項ニ見ルカ如キ目覺シキ成績ヲ擧ケ來
レリ

「ビロ、ビッサン」區ノ植民ニ付統制、監督ノ直接機關ヲ爲ス「ダリコムゼット」(極東地方勤勞

ムゼット

的猶太人土地整備委員會)ハ各地ニ於ケル「コムゼット」ニ比シ最モ立運レテ設置セラレタルモ
ノナルカ一九二八年「ビラ」及「ビッサン」兩河ノ流域ニ猶太人植民地ヲ特設シテ以來有力ナ
ル民間團體「オゼット」ノ積極的援助ノ下ニ「ビロ、ビッサン」區ヲシテ兎モ角現狀ニ迄漕キ付
カシメタリ

「キヤン」¹⁾「オヤム」²⁾ Ozer

「Кань 1) Оямь 2) Озер» Воеводное Управление по Земельному Упорядочению Тувинской Республики в С.С.
С.Р. («Тувинет») 社會主義共和國聯邦ニ於ケル勤勞的猶太人ニ對スル土地整備ニ關スル全聯
邦的協會)ノ略稱ニシテ一九二五年一月十七日ノ設立ニ係ル本協會ハ貧困猶太人ノ農民化誘導
ノ助成ヲ目的トスルモノニシテ就中「コムゼット」ノ政策ノ實現ニ寄與スルコト及各地方ニ於
ケル猶太住民ニ對スル産業上ノ援助(「ビロ、ビッサン」ハ其ノ最大ノ事業ナリ)ヲ以テ主タル
目的トス尙各地方ニ於ケル猶太移民ニ對シ文化上及醫療衛生上ノ援助ヲモ爲シツツアリ
一九二九年五月一日現在ニ於ケル統計ニ依レハ「オゼット」ハ六〇〇ノ支部ト一七〇、〇〇〇人
ノ會員ヲ有ス

「ウラル」以東ニ於ケル「オゼット」ノ支部設置地ハ「チニヤービンスク」、「オムスタ」、「ノ

ウシビルスク、「イルクーツク」、「クラスノヤルスク」、「トムスク」、「ハバロフスク」等ナ

七二

「Культурно-Опрос」Op

「Культурно-Опросно Распространения Ремесленного и Земледельческого Труда среди Рабочих в СССР. (ソヴェト) 聯邦在住猶太人手工業農業普及協會)ノ略稱ニシテ「オゼット」ト共ニ「コムゼット」ノ政策遂行ニ付實際上ノ援助ヲ爲ス民間ノ團體ナリ主トシテ猶太人手工業者ノ植民ヲ取扱ヒ居レル處「ビロ、ビッジャン」區ニ關スル限リ「オゼット」ノ活動ニ押サレ「オルト」ノ事業トシテハ殆ト見ルヘキモノナシ

第三節 「ビロ、ビッジャン」區ノ植民

鐵道沿線地方ノ植民ハ「ウスリー」鐵道建設ノ當時(一九一〇—一九一五年)ニ開始セラレ非常ナル勢ヲ以テ沿線ノ人口膨脹シタルカ右ハ主トシテ鐵道従業員、同家族及沿線林區ニ於ケル伐林ニ就業スル労働者群ノ増加ニ俟ツモノナリ

他方黒龍江沿岸地方(舊「エカテリノ、ニコリスキー」地方及「ミハイロ、セメノフスキー」地方)ノ植民ハ一八五八年舊帝制政府ノ政策上後員加爾地方ノ「ゴザック」ヲ動カシテ強制的ニ移

革命前ノ植民ノ地方

ビロ、ビッジャン

地方

沿

地方

地方

地方

地方

民セシメタルニ端ヲ發シタリ其ノ後一八七一年ニ至リ沿海州地方ヨリ本地方ニ移レル朝鮮人ニ依リ「ブラゴスロヴェンノエ」村創成セラレ一八九〇年代ニ入りテハ羅馬尼方面ヨリノ漁民ヲ主トスル移民ニ依リ沿黒龍江地方ニ「ウラヂーミロフカ」、「ボタロフカ」ノ兩部落發生シ又「ニコラエフカ」村ハ一八九〇年、「ニジニ、スバツスコエ」、「ヴェルフニ、スバツスコエ」、「サマロ、オルロフカ」ノ三村ハ一九〇二年ヨリ一九一二年ノ間ニ發生セリ沿黒龍江地方ノ一部ノ地ハ一八七〇年頃ヨリ「ゴザック」ノ領有地ニ指定セラレ之ヲ一般植民ノ目的ニ充ツルコトハ禁セラレタリ依テ同地方ニ於ケル各部落ノ人口ハ専ラ自然的増加ニ依リテ膨脹シタルニ過キス

一九〇八年—一九一〇年中當時ノ植民機關ハ「ハバロフスク」市ニ接壤セル沿黒龍江一帯ノ地(「サマロ、オルロフカ」、「ニジニ、スバツスコエ」、「ヴェルフニ、スバツスコエ」、「ルゴフスコエ」、「デジネフカ」等)及「オン、ビラ」開墾地(「ビラ」農事試驗所附屬農場、「アレクセーエフカ」、「アレクサンドロフカ」、「トラシイグイ」等)ニ於テ植民用地ヲ設定セリ一九一四年迄ニ各地ヨリ之等ノ植民用地ニ移住シタル者ハ數百家族ニ上リタルカ何レモ土着スルニ至ラスシテ結局數十家族ヲ殘シタルノ外何等植民ノ實ヲ上タルコトヲ得サリキ「オン、ビラ」開墾地ノ如キ一九〇四年植民ノ最高潮ニ達シタル時代ニ於テ四五〇家族ヲ算シタルモ一九二七年ニ於テハ僅ニ五

七三

革命前植民不成功ノ原因

一九二八年三月八日附報決定ノ植民

○家族(「ステラ」)地區、「ニメッキ」、「アレクセーエフカ」ヲ算シタルニ過キス
今其ノ植民不成功ノ原因ヲ研メンニ

一、植民用地ニハ水利其他ノ改良工事、道路ノ敷設等一般ノ施設不十分ナリシコト

二、政府側ノ財政的援助ノ不十分ナリシコト
三、一九一五、一六兩年度ニ於ケル雨量餘リニ多カリシ爲メ穀物ノ取入レ上支障ヲ來シ地方民カ凶作ニ苦ミタルコト

四、一九一四年ノ大戦勃發以來國內ノ政變相續イテ起リ住民ハ安シテ業ニ就クコトヲ得ス遂ニ其ノ經濟的生命全ク潰滅スルニ至リタルコト

ノ四ニ歸スヘシ其ノ他尙同地方ニ於テハ週期的ニ洪水アリテ低地ニ於テハ畑地ニ浸水シテ穀物ノ被害多ク且浸水セサル平原地方ニ於テモ沼地多クシテ耕作上ノ不便鮮カラサルコト等モ植民不成功ノ原因トシテ看逃スヘカラサル事情ナリ

一九二八年三月二十八日附報ヲ以テ「ソヴェト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會カ「ビロ、ビッジャン」地方ヲ猶太人ノ植民ニ充當スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ三五、〇〇〇家族ノ猶太人ヲ移植スヘキ案ヲ立テタルカ其ノ中差當リ一九二八年—三三年ノ五ヶ年間ニ二〇、〇〇〇、〇〇〇留ノ經費ヲ以

第一回植民

テ一萬家族(五萬人)ヲ移住セシムルコトトセリ併シテ當局ハ最初ノ移民トシテ六〇〇家族ヲ募集シタルニ少數ノ應募アリ同年五月早クモ上旬同地方ニハ第一回ノ猶太人移民六五四名到着セリ之等ノ猶太人ハ先ツ舊政府ノ植民ニ成功セザリシ「オン、ピラ」開墾地(「チーホニカヤ」驛ノ南方五五乃至六〇「キロメートル」ノ地ニアリ)ニ之ヲ配屬セシメタルカ其ノ中一八〇名ハ水田經營ノ爲「ユカテリ」ノ「ニコリスキー」地方ヘ轉セシメラレタリ

第一回移民ノ内四五〇名ハ皆一戸ノ代表者ニシテ先ツ前途ヲ見究メ落着クヲ待テ始テ其ノ家族ヲ呼ビ寄セントスル者多數アリタリ然ルニ到着月余ニシテ「ビロ、ビッジャン」ノ實情期待ニ反スルノ所以ヲ以テ歸還シタル者續出シタル越ナルカ大體ニ於テ落着ク模様ヲ示セリ右ノ中四一五名ニ付職業別分類ヲ爲スニ

農 耕 業	二九	七
養 蜂 業	一	一
職 人	二五三	六一
雜 役 夫	八四	二〇
馬夫、店員、事務員等	四八	一一
		七五

ニシテ職人(手工業者ヲ含ム)大半ヲ示ムルハ特ニ目ヲ惹ク所ナリ

右ノ移民ハ庄トシテ「ウクライナ」及白露方露ヨリ來ル貧困ナル猶太人ナルヲ以テ「コムゼット」及「オゼット」ハ之ニ旅費ヲ給シ到着後二ヶ月間ノ生活費ヲ給スルヲ常トス移民ノ收容ニ付テハ一九二一年中差當リ八〇戸ノ住宅ヲ建テ翌二九年以降ニ於テ基本的諸施設ノ開設ニ着手セリ移民ニ對スル援助事務ハ極東地方植民局附屬ノ「ビロ、ビッジャン」移民調査隊ノ路稱「ゾボ」(土地ノ整備、水利事業、住民ノ定着及監督)「オゼット」(土地ノ耕耘、道路工事、建築工事及農學上ノ援助)ニ委嘱セラレタリ事實上「ビロ、ビッジャン」移民調査隊及信用組合ノ設置前ニ於テハ「オゼット」ハ自ラ猶太人移民ニ對スル物資ノ供給ニ任シタリ尙極東地方中央執行委員會内ニ「コムゼット」設置セラレ移民事業ノ監督及計劃ノ管掌ニ任シタリ

一九二八年ニ於テ猶太人移植事業ノ核心地トナリタルハ「ビラ」農事試験場附屬農場ノ經營ナルカ同地ト「チーホニカヤ」驛トノ間ニハ全長六〇「キロメートル」ノ里程アリ移民ハ五名乃至二十名ヲ單位トセル「コルホーズ」ヲ組織シ土地ノ開墾、牧草ノ刈取、住宅ノ建築、道路敷設工、事諸材料ノ運搬等ニ従事セリ同年七月八日「ビロフエリド」ニハ村「ソヅィエト」設定セラレ次ヲ消費組合及信用組合組織セラレタリ

然ルニ一九二八年ハ不幸ニシテ降雨例年ニ無ク少量ニテ前後四回ニ亘ル出水ニ因リ「ビロフエリド」地方ハ數週ノ間物資供給ノ本據タル「チーホニカヤ」トノ連絡ヲ斷タレ且土壤ノ濕度極度ニ大ナリシヲ以テ僅ニ二二〇「ヘクタール」ノ地ヲ耕スコトヲ得タルノミ斯クシテ移民ノ着手シタル事業ハ何レモ中途ニシテ挫折スルノ憂目ヲ生シ植民事業ノ前途ニモ一抹ノ暗翳投セラレタリ

一九二八年中ハ本區ニ來着シタル猶太人移民ハ總數八五六名ナルカ「オゼット」ノ提供ニ係ル「トラクター」群ハ二、五〇〇「ヘクタール」ノ土地ヲ開墾シ三八〇「ヘクタール」ノ作付段別ヲ舉ケタリ尙林區ニ於テハ一九二八年ヨリ二九年ニ亘ル冬期中移民ノ用ニ充當スル爲約五〇〇、〇〇〇立方呎ノ木材ノ伐出ヲ爲シタリ

一九二九年中新ニ設ケラレタル部落ニハ「エカテリノ、ニコリスコエ」村ヲ去ル一二「キロメートル」ノ「アムールゼット」、「チーホニカヤ」ヲ去ル九「キロメートル」ノ地ニ位スル「ワルドゲイム」及「オン、ビラ」河上ニ在ル「ビロフエリド」(「チーホニカヤ」驛ヨリ六〇「キロメートル」)尙又「ゾオロチャイエフカ」驛ヲ去ル九「キロメートル」ノ地ニ在ル舊「デジネフスカヤ」農事試験場ニ「イコール」ノ名稱ヲ冠シタル「コムナーナ」「コルホーズ」中最モ社會主義ノ理想ニ近キモノノ開設セラレタリ

一九二九年「ピロ、ビッジャン」移民調査班ハ約二百萬「ヘクター」ノ尨大ナラ地ニ於テ大規模ノ實測ヲ行ヒ「エカテリノ、ニコリスロエ」村地方ニ於テ大粒穀「ソグホーズ」ヲ興ス爲約五〇、〇〇〇「ヘクター」ノ地ヲ整備シタリ斯クテ一九二九年春ニハ猶太人移民ハ約一、五〇〇名ヲ算シタルカ農業移民ヲ奨励スルト共ニ他方ニ於テ農工業以外ノ生業及家内工業方面ノ移民ヲモ行ヒ其ノ結果「チーホニカヤ」ニ職工五〇名ヲ有スル家具工場一、職職工一五ヲ有スル製靴「アルテリ」(同業組合)、靴下製造「アルテリ」(一〇名)靴製造「アルテリ」(一五名)設立セラレ「ピラカン」ニハ石灰製造「アルテリ」(就業者四〇名)、車輪製作所(職工二五名)等設置セラレタリ

極東地方當局ハ一九二八年ヨリ一九三〇年ニ掛ケテ労働者及従業員ノ技能變更ヲ目的トスル講習會ヲ設置シ「ピロ、ビッジャン」區及極東地方其ノ他ノ各區ニ配屬セシムヘキ「トラクター」操縦士、大工等八〇〇名ヲ養成セリ

一九三〇年十月現在ニ「ピロ、ビッジャン」區ニ於ケル猶太人數ハ合計ニ、四五名ヲ算シ區内全人口ノ六、五「パーセント」ニ當レリ一九二八年二九兩年度ニ於ケル移民事業ノ進捗思ハシカラザリシハ右兩年ノ雨量特ニ多量ニ及ヒ處女地ノ開墾、播種計劃ノ遂行ニ著シキ障害ヲ與ヘ穀物ノ作柄

一九二八
一九二九
兩年度ノ
不成績ノ

七九

ニモ著シキ影響ヲ與ヘ家畜ノ斃死スルモノ夥シキ數ニ上リタルニ因ルモノニシテ移民中ニハ「ピロ、ビッジャン」ノ將來ニ危惧ノ念ヲ抱キ歸還ヲ希望スルカ如キ者モ續出スルノ有様ナリシア以テ一九三〇年以後更ハ真剣味ヲ加ヘテ移民事業ノ發展ヲ計ルコトト爲シ同年秋開墾セラレタル第一回「ピロ、ビッジャン」共産黨「ソグホーズ」ハ左ノ如キ聲明ヲ爲ス所アリタリ

「第一回「ピロ、ビッジャン」共産黨會議ハ「ピロ、ビッジャン」ニ於ケル前進的労働者及勤勞的農民ノ名ニ於テ共産黨極東委員會ニ對シ「ポリシエヰキ」ノ敬意ヲ表ス「ピロ、ビッジャン」ニ於ケル黨ノ機關ハ乎タル決斷力ヲ以テ一般計劃ノ實現ニ邁進スヘシ

「ピロ、ビッジャン」ノ共産黨員ハ五ケ年計劃ノ殘餘ノ期間ニ於テ既定ノ粒穀、野菜、工業原料作物及牧畜「ソグホーズ」ヲ建設シ幾十萬「ヘクター」ノ耕地ヲ開墾シ勤勞的農民階級ヲ鞏固ナル「ソルホーズ」ニ糾合シ極東地方並ニ聯邦ノ輸出資源ヲ擴張シ農産物ノ加工製造業ヲ物興セシメ又本地方ニ於ケル豐饒ナル礦産資源ノ研究ヲ開始スルコトヲ以テ當面ノ事業トシ銳意其ノ目的ニ突進シ居レリ尙又移民問題ニ關シテ黨機關ハ特ニ深甚ナル注意ヲ拂ヒ以テ本地方ノ經濟上ノ發展ニ資スヘク努力シツツアリ」云々

一九三〇年迄ノ移民事業ノ實狀ニ鑑ミ「ピロ、ビッジャン」區ニ於ケル農事經營ノ形式ハ共營ヲ以

第一回
「ピロ、
ビッジャン」
共産黨會
議決議文

「ソグホ
ーズ」及

七九

「ソグホ
ズ」ノ
創設

テ最適ノモノト認メラレタリ即チ本區ノ移用地ハ相當豐富ナルモ其ノ開墾ハ可成リ困難ナル性
質ノモノナルヲ以テ個人經營又ハ小規模ノ「コルホーズ」經營ニ依ル農業ハ完全ニ之ヲ阻礙運
スル能力ナク大規模ノ機械化セラレタル經濟ニシテ始テ充分ノ結果ヲ期待シ得ヘキコト明瞭トナ
リタリ依テ從來「チーホニカヤ」南方ノ移住地ニ於テ形成セラレタル群少「コルホーズ」ハ其ノ
後漸次合同ノ機運ニ驅ラレ現在ニテハ「アムールゼット」、「ビロフエリド」、「ワルドゲイム」並
ニ「イコール」コンムーナ（「デジネフカ」附近）ノ四大「コルホーズ」（何レモ猶太人ノ組織ス
ル所ナリ）ヲ生セリ（一九三〇年五月ノ調査ニ依レハ「ビロ、ビッジャン」區ニハ農事「アルテ
リ」三〇、「コンムーナ」五、共同耕作組合一合計三六ノ「コルホーズ」ヲ算シタルカ前記ノ四「コ
ルホーズ」ハ規模ニ於テ群ヲ抜ク）右四大「コルホーズ」ハ一九三〇年中「五六三」ヘクタールノ
作付段別ヲ示シ急々急激ナル發展ヲ遂ケタル結果勞働力ニ不足ヲ生シ一九三一年夏ニ於テハ「ワ
ルドゲイム」四〇〇名、「ビロフエリド」四〇〇名、「アムールゼット」三〇〇名、「イコール」五
〇名ノ勞働者ヲ求メ其ノ後組成セラレタル「コホーズ」、「ビラカン」モ亦五〇名ノ新勞働者ヲ募集
シタリ

八〇

一九三〇年春以來粒穀「トラスト」（「ゼルトレスト」）所管ノ「ビロ、ビッジャン」「ソグホーズ」、

「エカテリノ、ニコリスキー」米作「ソグホーズ」、「ハバロフスク」市附近ノ搾乳蔬菜「ソグホー
ズ」及「アムトル、ビイスキー」牧畜「ソグホーズ」設置セラレ其ノ事業ノ開始ヲ見タリ右ノ外
聯邦農業人民委員部調査班ハ更ハ十箇所ニ大規模ノ「ソグホーズ」ノ設置ヲ企圖シ一九三二年迄
ニ早クモ其ノ八「ソグホーズ」ヲ開設セリ右案ニ關スル詳細ハ第一章第五節第一款中ニ記述シタ
ル所ノ如シ尙極東地方移民機關ハ一九三一年中「ビロフエリド」地方ニ農業機械「トラクター、
ステーション」（所屬地六〇、〇〇〇ヘクタール）ヲ開設シ「ビロ、ビッジャン」粒穀「ソグホーズ」
所在地ニ「ソグホーズ」及「コルホーズ」ノ聯合經濟ヲ新設スヘキ計劃ヲ爲シタル趣ナリ
尙「ハバロフスク」市發行極東地方執行委員會機關紙ハ一九三一年初莫斯科通信トシテ
「コムゼット」ハ一九三一年「ビロ、ビッジャン」地方ニ五、〇〇〇家族ノ植民ヲ目論タル趣ニシテ
其ノ中ニハ「コルホーズ」移民六五〇家族、手工業移民三五〇家族、「ソグホーズ」移民一、六〇
〇家族アリ「コルホーズ」移民ニ對シテハ既ニ「コムゼット」ハ一、七六五、〇〇〇留ヲ支出シ手工
業移民ニ對シテハ産業「コオペラチヴ」ヨリ四〇〇、〇〇〇留ヲ支出セラレタリ又「ソグホーズ」及
工業企業關係ノ移民ニ對シテハ關係ノ經濟機關ニ於テ一九三一年分トシテ一六、〇〇〇、〇〇〇留
ヲ支出スル豫定ナリ

八一

トノ記事ニ掲ケタルカ同年夏ニ於ケル猶太人移民ハ總計約四、〇〇〇名程度ニシテ同年中移住シタル者ハ一、五〇〇名見當ニ過キス右ニ掲ケタルカ如キ巨額ノ資金ノ投セラザリシハ勿論ナリ一九三二年及三二年ニ於テ本區ノ移民上特ニ注意スヘキ事實ハ在外猶太人ノ移住著増シタルコトニシテ亞爾然丁ヨリハ第二回移民團五六名到着シ又在米「イコール」ハ「ビロ、ビッジャン」區ノ住宅建築労働者三八〇名ヲ募集中ノ趣ニテ「リスミアニア」ヨリハ製圖工一九名到着シ猶太人農事會中央評議會ハ「パレストアイン」ヨリ「ビロ、ビッジャン」區へ六四名ノ労働者ヲ移住セシメタルカ右ハ三二年夏到着ノ筈ナリト傳ヘラル尙獨逸ノ猶太人農事後援會ノ募集ニ係ル八〇名ノ猶太農民モ出發準備中ナリトノコトナリ之等ノ在外猶太人ハ主トシテ「オゼット」ヲ通シテ「ビロ、ビッジャン」ヘノ移住ヲ申込居レル所一時ハ米國、歐洲、「アルゼンチン」等ノ各國ヨリノ申込數百ヲ算シタリ一九三二年第一期（一月、二月、三月ノ三月間）中「ビロ、ビッジャン」區ニ到着シタル猶太人移民數ハ一、一八六名ニシテ其ノ内譯ハ

家族數	獨身者
「ウクライナ」ヨリ	一八六
白 露	三〇九
	三三九

露西亞共和國	六	一一二
西部亞比利	一一	三三
外 國	二四	八〇

ニシテ右ノ中ニハ極東地方農務廳カ「コルホーゾ」建設ノ爲募集セル大工二二〇名アリ建設方面ニ於テモ三二年末以來「チーホニカヤ」「ビロ、ビッジャン」ト改稱セラレ市制ヲ施行セラレタル趣（ニハ手工業組織ノ經營ニ係ル石鹼製造工場、機械式洗濯工場等設置セラレ一九三二年初夏「ハバロフスタ」市ニ開カレタル極東地方執行委員會全會員會議ハ「ビロ、ビッジャン」區ニ於ケル工場並ニ住宅ノ建設ニ關スル諸種ノ決議ヲ採擇シタルカ其ノ中ニハ冶金工場及其他各種ノ工場ノ建設ニ關スル計劃モ包含セラレ居レリ本三二年度ニ於テ完成ヲ豫定セラレルモノハ「ビロ、ビッジャン」市ノ停車場、「ビラ」河鐵橋、「ソグヴェト」會館、發電所、病院、旅館、徒弟學校、猶太人工業學校、新築住宅等ニシテ右ノ外極東地方執行委員會議長「ブツェンコ」氏ノ提唱ニ係ル「ビロ、ビッジャン」市ニ「文化ノ家」建築ノ爲追加豫算ヲ請求スヘキ案ハ滿場一致ニテ通過シ極東地方ノ豫算ヲ以テ近ク起工セララル筈ナリト

尙茲ニ注意スヘキハ一九三二年以來赤衛軍人「コルホーゾ」二箇所ニ組成ノ計劃アルコトニシテ

八四
 歐露方面ノ赤軍隊兵ヲ「ピロ、ビッジャン」ニ移住セシメ屯田兵制度ノ樹立ヲ計ラントスルモノ
 ノ如ク三一年中極東地方機關紙ニ報セラタル所ニ據レハ先ツ除隊兵七〇〇家族ヲ移植セントスル
 趣ナリ尙猶太人移民ニハ豫メ特設ノ講習會ニ於テ各種ノ技能ヲ習得セシメタル上前記ノ各「ソグ
 ポーズ」ニ於テ之ヲ常備ノ労働者トシテ使用シ當多數ノ移民ヲ消化スル豫定ナリ山地ト開拓ハ容
 易ナラサルモノアルヲ以テ石炭工場、木材加工工場、及冶金工場等ヲ開設シテ漸進的政策ヲ持シ
 之等諸工場ニ於テモ移民ノ努力ヲ消化スル豫定ナリ
 家内工業方面ニ於ケル産業ノ開拓ニ關シテハ石灰石ノ加工製造、木材ノ乾溜、油脂工業等有望ニ
 シテ猶太移民ヲ相當之ニ誘入セント計劃中ナリ

在外猶太
 人ノ移住
 希望者
 第四節 「ピロ、ビッジャン」區ノ在外猶太人ノ移住
 「ソグイエト」當局ハ「ピロ、ビッジャン」地方ニ猶太人植民地ヲ設定シテヨリ以來内外ニ對シ大
 ニ其ノ事業ノ成功ヲ宣傳シ同地方ノ將來頗ル有望ナルモノアルヲ鼓吹シツツアル所他方海外ニ於
 テモ前記「イコール」ノ如キハ猶太會誌ヲ編纂シテ同地方ノ事情等ヲ海外各地ニ紹介シタルニ依
 リ世界各地ニ於ケル猶太人ヲ刺戟シ各地ヨリ「ピロ、ビッジャン」區ノ移住希望ノ申出多ク一九
 三二年八月二十五日「ハバロフスク」市發行機關紙「チホオケアンスカヤ、ズグニズダ」ノ報ス

ル所ニ據レハ

「パレストアイン」ヨリ	二八九
「ラトグイア」ヨリ	五一
佛 蘭 西ヨリ	五二
白 耳 義ヨリ	九四
亞 爾 然 丁ヨリ	一六二
亞 爾 然 丁ヨリ	二二
木 工	二七
家屋組立工	一三
運 轉 士	二八
農業労働者	三三
錠 前 師	二二
電 氣 工	九

職業別
 アリ之カ職業別ヲ示セハ左ノ如シ

鑛 治 工 五八
 稅 工 二七
 織 物 工 八

ニシテ無職ノ者及土工労働者ノ如キ特殊ノ技能ヲ有セサル者ハ甚タ少数ナリ右ハ主トシテ歐洲大
 數前後ニ露國ノ各地ヨリ海外ヘ渡航シタル猶太移民ノ歸還者ニシテ「ソヴイェト」當局ハ事情取
 調ノ上大體ニ於テ入國ヲ許可シ居ルカ如シ以上ノ外「リスミアニア」ヨリ三〇〇名ノ移民アリ右ノ
 一部(一)家族ヨリ成ル一團ニシテ内錠前師一、木工五、屋根葺職人(一アリ)ハ一九三二年八月
 一五日莫斯科ヲ發シ「ビロ、ビッジャン」ニ向ケ出發シタリ其ノ後ノ移住狀況ヲ見ルニ一九三二年
 初亞爾然丁ヨリハ第二回ノ猶太労働者移民團(五六名)「ビロ、ビッジャン」ニ到着シ又「リスア
 ニア」ヨリハ製圖工一九名到着セリ在紐育「イコール」本部ハ「ビロ、ビッジャン」區ニ於ケル住
 宅建築ノ爲建築労働者三八〇名ヲ募集中ナルカ前記「リスミアニア」ノ製圖工モ亦之ニ應募シタル
 者ナリ其ノ他「パレストアイン」ヨリノ六四名ノ労働者ハ一九三二年夏期中ニ「オルト」ノ募集ニ
 係ル在獨猶太農民八〇名ハ同年初秋頃現地ニ到着ノ豫定ナリト傳ヘラル
 在外猶太人ノ「ビロ、ビッジャン」區ヘノ移民ハ昨今ニテハ相當多數ニ上ル趣ニテ參考迄ニ「ソヴイ

人移住者
ノ割合

エト」側發表ノ數字ヲ示セハ一九三二年第一期(一月、二月、三月)中ノ同區新移民二六五家族、
 獨身者六七一名合計一、一八六名中海外各地ヨリ渡來シタル者ハ二四家族、獨身者八〇名合計一
 三〇一、四〇〇名即チ約一二「パーセント」ニ當レリ

第五節 猶太移民ニ對スル外國側ノ援助

「ビロ、ビッジャン」區猶太人植民計劃ノ發表セラルト同時ニ「ソヴイェト」聯邦政府ハ一九二八
 一三三年ノ五ケ年間ニ於ケル猶太人一萬家族ノ移植ニ對スル經費ヲ二〇、〇〇〇、〇〇〇留ト豫定
 セルカ其ノ中既ニ支出セラレタル額ニ付テハ確報セラレタル所ナシ只一九三二年中移民事業費ト
 シテ國家豫算中ニ計上セラレタル額ハ合計二、五〇〇、〇〇〇留ニシテ其ノ中一、四〇〇、〇〇〇留
 ハ之ヲ移民交附金トシテ提供シ殘額一、一〇〇、〇〇〇留ハ一定ノ期間ヲ經タル後返還セシムル定
 ナリキ然レトモ「ソヴイェト」政府現在ノ財政狀態ヲ以テシテハ到底移民事業費ノ全額ヲ國家豫
 算中ヨリ支出スルノ餘裕ナク植民資金ハ大半ヲ諸外國ニ在ル猶太人ノ諸團體ヨリ融通セラレ居ル
 有様ナリ即チ植民資金ノ六五「パーセント」ハ米、獨、佛、亞爾然丁等ニ於ケル猶太人諸團體ヨ
 リノ「オゼット」(「ソヴイェト」聯邦ニ於ル勤勞の猶太人土地整備ニ關スル全聯邦的協會)ニ對スル
 寄附金又ハ貸付金ニシテ殘餘ノ三五「パーセント」ハ國庫ノ支出ニ係ルモノニ五「パーセント」

及移民自身ノ據出ニ係ルモノ一〇「バーセント」ニ分ル
 「ピロ、ビラジヤン」區ノ猶太人移民事業ニ對シ最モ興味ヲ有スルハ在米勤勞的猶太人植民協會(略稱「イコール」)ニシテ同協會ハ主トシテ在米ノ左傾猶太人ニ依リ組織セラレルモノナリ
 「ソウヴェト」聯邦ニ於ケル猶太人ノ移民ヲ援助シツツアル在外猶太人團體ノ主ナルモノハ「アダロ、ジョイント」、「イコール」(以上米國系)「オルト」(獨逸系)「エコ」等ナルカ其ノ間自ラ活動範圍ヲ異ニシ「ピロ、ビラジヤン」區ノ移民ヲ助成スルハ目下ノ所「イコール」ノミニシテ「アダロ、ジョイント」ハ主トシテ「ウタライナ」共和國ノ「クリグワイ、ログ」及「ヘルソン」地方並ニ「クノミヤ」地方ニ於ケル移民事業ヲ助成シ、「エコ」ハ主トシテ「マリウボリ」、「ザボロジエ」地方ヲ「オルト」ハ「オデッサ」一帯ノ地ヲ活動範圍ト爲シ居レリ是「イコール」ノミカ「ピロ、ビラジヤン」ニ對スル外國側ノ援助トシテ論スヘキ價値アル所以ナリ
 「イコール」ノ歐羅方面ニ於ケル活動ハ從來極テ著シカラス僅ニ「クリミヤ」ノ「エフパトリヤ」地方ニ於ケル猶太農民ノ事業ヲ援助シタルニ過キサリシカ一九二八年以來「ソウヴェト」當局カ「ピロ、ビラジヤン」地方ニ「ウタライナ」、白露地方ヨリノ猶太農民ノ移住計劃ヲ樹立シ其ノ資金不充ナルコトヲ傳ヘラルルニ及ヒ卒先シテ多大ノ好意ト實際上ノ援助ヲ寄セ猶太人ノ授産ヲ目

的トセル全聯邦協會「オゼット」ト提携シテ移民事業費ノ大部分ヲ寄附金ノ形式ヲ以テ交付シテ都ヲ貸付金トシテ提供シ來レリ貸付ノ條件等ニ付テハ詳ナラサルモ從來「ウタライナ」地方ニ於ケル「アダロ、ジョイント」ノ取扱振ヲ見ルニ「アダロ、ジョイント」ハ猶太移民トノ契約ニ依リ約二〇〇〇、〇〇〇留ノ資金ヲ貸付ケタルカ「コムゼット」及其ノ他ノ關係機關ニ依リ承認セテレタル條件ノ要旨ハ
 一、移民ハ貸付金ノ交付ヲ受ケタル時ヨリ一七年後ニ元金ノ償還ヲ開始シ償還額ハ毎年元金ノ十分ノ一ト定ム即チ二七年後ニ於テ完済ス
 二、利息ハ年五歩トス
 三、右元利金ノ支拂ニ付テハ「ソウヴェト」政府ニ於テ之ヲ保證ス
 四、二三歳タヘシ「イコール」ハ「ピロ、ビラジヤン」區ニ對シ積極的援助ヲ爲スニ先チ同區ノ一般ノ狀況及産業ノ形態ヲ觀察シ將來ノ機械化ノ可能性ノ有無並ニ合理的植民方法ヲ調査スル爲メ現地ニ調査團ヲ派スルコトトシ「ダリス」博士ヲ團長トシ「イコール」書記「イリム」以下合計八名ノ一行ハ一九二九年夏紐育ヲ出發莫斯科ヲ經テ「ピロ、ビラジヤン」地方ニ至リ數ヶ月滞在詳細調査スル所アリタリ團長「ダリス」博士ハ一九二六年夏東京ニ開催セラレタル太平洋學術研究會議

ノ議長ニ推サレタル人物ニシテ現在ハ米國「ブリアンゲン」大學學者ノ職ニ在リ委員中ニハ農業技師、道路工事、養禽ノ専門家等モ混シ各方面ニ亘リ充分觀察ヲ遂ケタリ

「イコール」書記「タリム」及「イコール」ノ「ビロ、ビッジャン」地方植民事業部主任「クンツエ」博士ノ兩名ハ入露後莫斯科ヨリ南下シテ「オデッサ」ニ赴キ「クリミヤ」各地ノ猶太移民ノ實情ヲ觀察シ「ビロ、ビッジャン」移民事業上ノ參考ニ資シタルカ其際「オデッサ」ノ新聞ニ「イコール」「ビロ、ビッジャン」植民援助ニ付左ノ如ク發表スル所アリタリ

「イコール」ハ從來「クリミヤ」ノ「エフバトリヤ」地方ニ於テ地方當局ト協力シテ猶太人植民事業ニ從事シ來レルカ今後ニ在リテハ專ラ「ビロ、ビッジャン」地方ノ植民ニ全力ヲ注クコトナレリ之カ爲メ「イコール」ハ先ツ「ビロ、ビッジャン」調査團ヲ組織シ充分ノ調査ヲ遂クル爲メ團員中ニ有力ナル米國技師、農業専門家數名ヲ加入セシメタリ右調査團ハ「ソヴェト」ノ各機關ト協力シテ工業化ヲ基礎トスル近代的亞米利加式農業植民地ヲ創設セント企圖中ナルカ「ソヴェト」政府ニ於テモ「ビロ、ビッジャン」地方ニ於テ猶太人移民ノ爲廣大ナル土地ヲ提供セリ

亞米利加ノ猶太人労働者等ハ何レモ「ソヴェト」聯邦ニ於ケル猶太人植民事業ニ大ニ囑望シツツアル處「ビロ、ビッジャン」ノ植民事業ニハ既ニ多額ノ資本カ投セラレ多數ノ「トラクター」、自動

車等カ同地ニ向ケテ發送セラレ又従業員二百人ヲ有スル挽木工場カ建設セラレタリ其ノ他強力ナル發電所モ目下建設中ニシテ農耕業モ着々成功シツツアルハ在米猶太労働者等ノ満足スル所ナリ余等ハ之ヨリ「ウクライナ」及「クリミヤ」ノ各地ヲ巡歴シ農事試驗場、「コルホーズ」、「ソヴェト」其ノ他各種ノ農業施設ヲ詳細觀察シ以テ「ビロ、ビッジャン」地方植民上ノ參考ニ資セントスルモノナルカ同地植民ノ前途ハ相當有望ナルモノト考ヘ居レリ云々（一九二九年六月二七日發行「オデッサ」管區機關紙「イズヴェスチヤ」所載）

「イコール」ノ活動狀況ハ大體上記ノ如キ所一九二八年春在紐育「イコール」本部ニ於テハ猶太語會報第一號ヲ發刊シ、「ビロ、ビッジャン」地方ノ記事ヲ滿載シタルコトアリ「ビロ、ビッジャン」ニ於テモ先ツ最初ニ組織セラレタル四大「コルホーズ」中ノ一二其ノ名ヲ冠シテ其ノ援助ニ報ヒタル事實アリ

